



# 『第6回世界のウチナーンチュ大会』

## 大会調査報告書



"The 6th Worldwide Uchinanchu Festival" Festival Survey Report

Informe de la encuesta del "6º Festival Mundial Uchinanchu"

"6º Festival Mundial Uchinanchu" Relatório de Pesquisa do Festival

研究代表者

加藤 潤三(琉球大学法文学部)

前村奈央佳(神戸市外国語大学国際関係学科)

## 【 目 次 】

日本語版(Japanese).....1~9

英語版(English).....10~18

スペイン語版(Español).....19~27

ポルトガル語版(Português).....28~36

# 『第6回世界のウチナーンチュ大会』 大会調査報告書

## 1. 研究の概要・目的

2017年10月26～30日、「第6回世界のウチナーンチュ大会」が開催された。

今回の大会では、①世界のウチナーンチュの交流を通してウチナーンチュネットワークを発展させ次世代へ継承する、②沖縄独自のソフトパワーへの理解を深め、国内外へ発信する、③万国津梁の精神を次世代へ継承し、海外への雄飛を促進する、という基本方針のもと、県・市町村・各種団体が中心となり、数多くのイベントやプログラムが催された。海外からの参加者は7000名を超え、大会の延べ来場者も約43万人と過去最多の人々（ウチナーンチュ）が今大会に参加した。

前夜祭のパレードに始まり、開会式、歓迎会、イベント…そして閉会式。「おかえりなさい」、「ただいま」の言葉とともに、各地で交流の花が咲き、地域や世代を超えたウチナーンチュの架け橋が築かれていった。

我々の研究チームでは、この「第6回世界のウチナーンチュ大会」におけるウチナーンチュの人々の社会的・心理的側面を明らかにすることを目的に、大会参加者を対象とする調査を実施した。その中でも本報告では、『第6回世界のウチナーンチュ大会』における参加者の実態と、大会の評価と効果を検証することを目的に、以下の3点について集計・分析を行った<sup>1</sup>。

- ① 回答者に関する基礎的情報として、属性の分析を行い、参加者の実態を明らかにする。【どのような人が大会に参加したか？】
- ② 大会に対する参加者の満足度や不満点などについて検討し、参加者の視点から大会への評価を行う。【大会はどうだったか？】
- ③ 大会目標・目的（ウチナーンチュアイデンティティの継承、ウチナーンチュネットワークの構築）に関する分析を行い、大会それ自体の効果を検証する。【大会は「ウチナーンチュ」のためにどのように役立ったのか？】

## 研究組織<sup>2</sup>

### ○研究代表者

加藤潤三（琉球大学法文学部）

前村奈央佳（神戸市外国語大学国際関係学科）

### ○研究分担者

金城宏幸（琉球大学法文学部）

野入直美（琉球大学法文学部）

酒井 清（琉球大学法文学部）

山里絹子（琉球大学法文学部）

グスターボ・メイレス（上智大学大学院グローバル・スタディーズ研究科国際関係論専攻後期課程）

### ○調査スタッフ

石原綾華・山下千春・琉球大学法文学部心理学コース学生 24名・神戸市外国語大学学生 19名

<sup>1</sup> 本報告書は、大会実行委員会が発行した「報告書」の一部を、各国県人会および県内関係機関用に加筆修正したものである。

<sup>2</sup> 本研究は文部科学省科学研究費補助金の助成を受けて実施した（基盤研究（C）、課題番号：15K04031、研究代表者：加藤潤三、および若手研究（B）、課題番号：16K17296、研究代表者：前村奈央佳）

## 2. 調査の方法

### ・ 調査協力者（回答者）

大会参加者 1119 名から回答を得た。ただし回答に不備のあったもの、および回答の妥当性の観点から 15 歳未満の参加者の回答を除外（26 票）し、最終的な有効回答数は 1093 名となった。

### ・ 調査方法

質問紙による調査を実施した。調査は大会 2 日目から最終日の 3 日間実施した。調査票は日本語・英語・スペイン語・ポルトガル語の 4 言語であり、調査用紙ないしタブレットで実施した。調査票の配布・回収は、大会会場に設置したブースおよびその周辺（沖縄県奥武山公園内）にて調査スタッフが大会参加者に声掛けをし、協力の意思を示した参加者に調査を依頼した。調査終了後、謝礼としてお茶を渡した。

### ・ 本報告書で使用した調査項目

【属性に関する項目】：参加者区分、沖縄系・移民世代、居住地、：県人会の所属と活動頻度、性別・年齢

【大会に関する項目】：参加目的、大会満足度

【大会の効果に関する項目】：アイデンティティ（ウチナンチュ・現地）、ウチナンチュネットワーク

## 3. 調査の結果

### ①回答者の基本属性の分析

#### 1) 回答者の参加区分（海外・県外・県内）

回答者が、海外・県外・県内のいずれから参加したかを区分したのが表 1 である。なお本調査では、大会参加者を対象としたため、「沖縄に観光に来ていて、たまたま大会に来た」という観光客は調査の除外対象とした。

回答者のうち、海外参加者は 381 名であり、全回答者の 34.9%であった。県外参加者は 35 名（3.2%）とあまり回答が得られなかった。なお県外参加者のうち、もともと沖縄出身の人は 11 名であった。県内参加者は 677 名と最も多く、全体の 61.9%を占めた。なお各参加者区分ごとの性別比と平均年齢についても表 1 に示す。特徴的な点としては、海外参加者の平均年齢が 52.7 歳と、県外および県内参加者よりも高かった。そこで海外参加者の詳細な年齢構成を検討すると、60 代および 70 代以上が多く、10 代は 3 名と極端に少なかった。

表 1. 回答者の参加区分

	度数	%	性別						平均年齢
			男性		女性		不明		
海外参加者	381	34.9	146	38.3%	199	52.2%	36	9.4%	52.7歳
県外参加者	35	3.2	7	20.0%	24	68.6%	4	11.4%	46.6歳
県内参加者	677	61.9	206	30.4%	436	64.4%	35	5.2%	40.6歳

## 2) 海外参加者の属性（沖縄系・移民世代・居住国・県人会の所属）

海外参加者 381 名の詳細について分析を行う。海外参加者の内、自身が沖縄系であると回答した人は 253 名（66.4%）と最も多く、次いで家族に沖縄系の人がいるとした人は 57 名（15.0%）であった。その他が 52 名（13.6%）いたが、これには「沖縄系の友人に誘われて」や「沖縄系の活動に参加」といった人たちが含まれていた（図 1）。

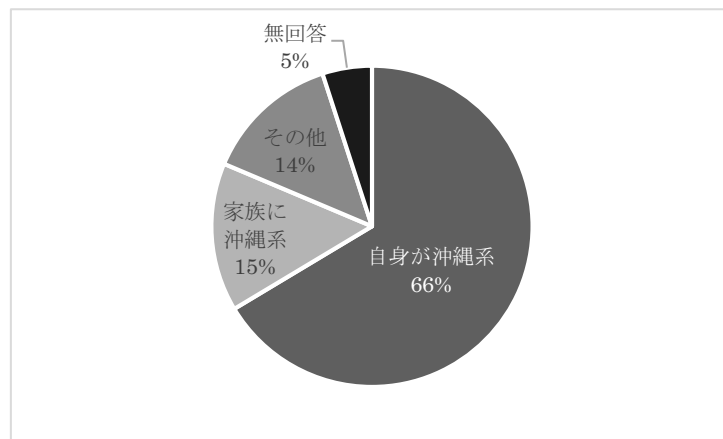


図 1. 海外参加者の属性（沖縄系か）

次に海外参加者の移民世代について検討を行った。世代としては移民 1 世から 5 世までが参加していた。各世代の人数比は、1 世が 39 名（15.4%）、2 世が 66 名（26.1%）、3 世が 81 名（32.0%）、4 世が 25 名（6.6%）、5 世は 2 名（0.8%）であった。なお前回および前々回からの海外参加者の世代構成の推移を図 2 に示す。前回と同様、海外参加者の移民世代の中心は 3 世となっていた。ただし、前回からの相違点をあげると 1 世の割合が低下したのに対し、4 世が増加するなど、少しずつ海外からの参加者における世代のシフトも見てとることができる。

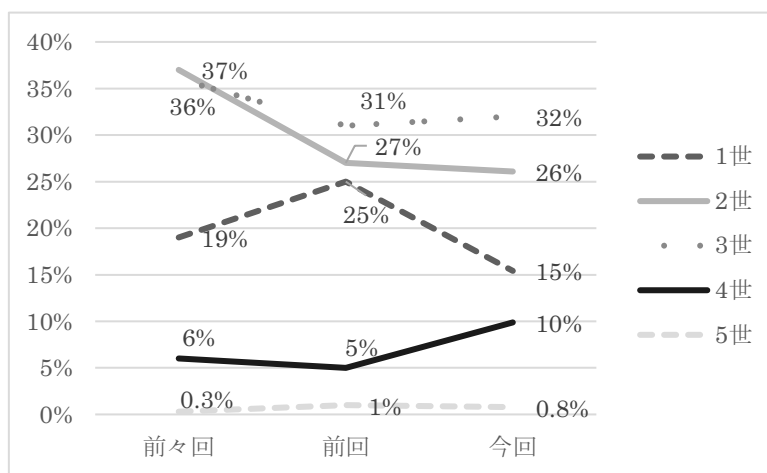


図 2. 海外参加者における移民世代の推移

海外参加者がどの国および地域から参加したかを明らかにするために、現在の居住地について分析を行った（表 2）。その結果、アメリカが 205 名と最も多く全体の半数近くを占めた。なおアメリカからの参加者のうちハワイからの参加者は 62 名であり、アメリカの参加者の約 30%を占めた。次いで多かった

のはブラジルの 41 名（10.8%）であり、以下アルゼンチン、ペルーと南米の国が多かった。なお表 2 中の右側の「大会参加者」は第 6 回世界のウチナンチュ大会実行委員会事務局調べの大会参加者数である。本調査と比較すると、ややブラジルの調査対象者数の割合が低いものの（4.6%の差）、おおむね実際の大会参加者の国・地域別の人数比と対応しているものと考えられる。なお海外参加者の回答であるにもかかわらず、現居住地として日本を挙げている人たちがいた。これらの人々はもともと海外移民で、現在は日本に住んでいるということである。

表 2. 海外参加者の居住地

エリア	国・地域	調査対象者	大会参加者
北米	アメリカ（うちハワイ）	205 (53.8%) (62)	4247 (58.1%) (1861)
	カナダ	26 (6.8%)	197 (2.7%)
中南米	ブラジル	41 (10.8%)	1131 (15.4%)
	アルゼンチン	37 (9.7%)	525 (7.1%)
	ペルー	25 (6.6%)	620 (8.4%)
	ボリビア	5 (1.3%)	138 (1.9%)
	メキシコ	2 (0.5%)	23 (0.3%)
アジア	フィリピン	3 (0.8%)	76 (1.0%)
	タイ	2 (0.5%)	15 (0.2%)
	マレーシア	2 (0.5%)	4 (0.1%)
	韓国	2 (0.5%)	3 (0.04%)
	台湾	1 (0.3%)	16 (0.2%)
	中国	1 (0.3%)	39 (0.5%)
ヨーロッパ	イギリス	2 (0.5%)	32 (0.4%)
	スペイン	1 (0.3%)	1 (0.01%)
オセアニア	ニューカレドニア	1 (0.3%)	65 (0.9%)
	日本	17 (4.5%)	
	無回答	8 (2.1%)	
計		381	7353

海外参加者の人々がそれぞれ居住地で県人会に所属しているか尋ねた（図 3）。その結果、227 名（59.6%）の人が県人会に所属していた。県人会に所属している人々が、どれほど県人会活動に参加しているか尋ねたところ、「めったに参加していない」という人は 2 割程度、「ある程度参加している（82 名、36.1%）」、「毎回参加している（80 名、35.2%）」という人が 7 割以上であった。このことから、県人会に所属している人は比較的積極的に県人会に関わっていると考えられる。

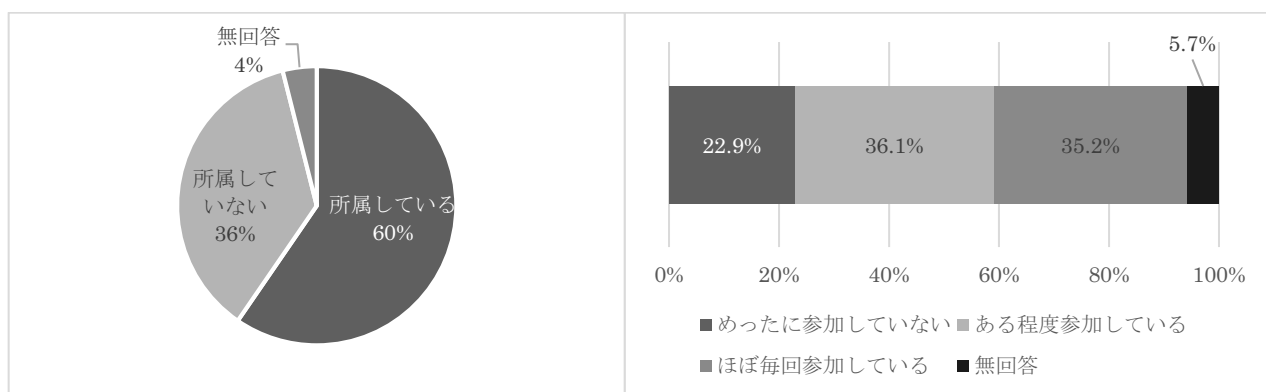


図 3. 海外参加者の県会所属と県会活動

## ② 大会の評価に関する分析

### 1) 参加目的

回答者がどのような目的で大会に参加したのか、その参加目的を尋ねた。当然ながら、海外参加者と県内参加者とでは目的が異なるため、参加者区分ごとで結果を見ていく（表 3）。

海外参加者では、「沖縄の伝統や文化を学ぶため」（15.7%）や、「親戚に会うため」（14.5%）、「自分のルーツを確認するため」（11.4%）などが多かった。県外参加者では、同様に「沖縄の伝統や文化を学ぶため」（13.6%）が多く、また「イベントに参加するため」（18.5%）というのも多かった。県内参加者では、「イベントに参加するため」（18.3%）というのが最も多く、それ以外として「世界の様々な文化と触れ合うため」（14.0%）、「世界のウチナーンチュと交流するため」（12.3%）、「沖縄系移民、政界の県系人について知るため」（10.2%）なども多かった。大きく言って、海外参加者にとっては「沖縄」と触れ合うこと、県内参加者にとっては「世界」と触れ合うことが目的となっていたと考えられる。

表 3.回答者の大会参加の目的

参加目的	全体		海外参加者		県外参加者		県内参加者	
	度数	%	度数	%	度数	%	度数	%
自分のルーツを確認するため	141	5.2%	112	11.4%	3	3.7%	26	1.6%
世界のウチナーンチュと交流するため	305	11.3%	97	9.8%	7	8.6%	201	12.3%
沖縄県民と交流するため	144	5.3%	89	9.0%	5	6.2%	50	3.1%
いろんな世代のウチナーンチュと交流するため	93	3.4%	20	2.0%	3	3.7%	70	4.3%
沖縄の文化や伝統を学ぶため	272	10.1%	155	15.7%	11	13.6%	106	6.5%
世界の様々な文化と触れ合うため	252	9.3%	20	2.0%	3	3.7%	229	14.0%
沖縄系移民、世界の県系人について知るため	230	8.5%	56	5.7%	7	8.6%	167	10.2%
親戚に会うため	174	6.4%	143	14.5%	2	2.5%	29	1.8%
友人・知人に会うため	154	5.7%	81	8.2%	5	6.2%	68	4.2%
県人会のメンバーとの交流を深めるため	30	1.1%	17	1.7%	1	1.2%	12	0.7%
周り(家族・親戚・友人・県人会など)から誘われて	165	6.1%	64	6.5%	6	7.4%	95	5.8%
誰かの付き添いで	84	3.1%	31	3.1%	3	3.7%	50	3.1%
イベントに参加(出演・鑑賞を含む)するため	381	14.1%	66	6.7%	15	18.5%	299	18.3%
仕事や勉強のため	142	5.3%	11	1.1%	5	6.2%	126	7.7%
その他	63	2.3%	20	2.0%	2	2.5%	41	2.5%
特に目的はない(通りすがりなど)	71	2.6%	5	0.5%	3	3.7%	63	3.9%
計	2701		987		81		1632	

### 2) 大会満足度

第 6 回世界のウチナーンチュ大会に対して、参加者の 87%が満足（「非常に満足（553 名、50.6%）」と「やや満足（399 名、36.5%）」の合計）していた。なお参加者区分別で示すと、海外参加者では「非常に満足」の割合が 79.3%と極めて高かった。一方、県内参加者では、全体としての満足度は高いものの、「やや満足している」（51.0%）が多かった。この点に関しては、統計的に差があることが確認されている（ $\chi^2(8) = 209.507, p < .01$ ）<sup>3</sup>。一連の結果より、本大会への参加者の満足度は高く、それは特に海外参加者で顕著であることが示された。

<sup>3</sup> 度数に相違があるかを見るために、カイ 2 乗検定という統計的手法で分析した。

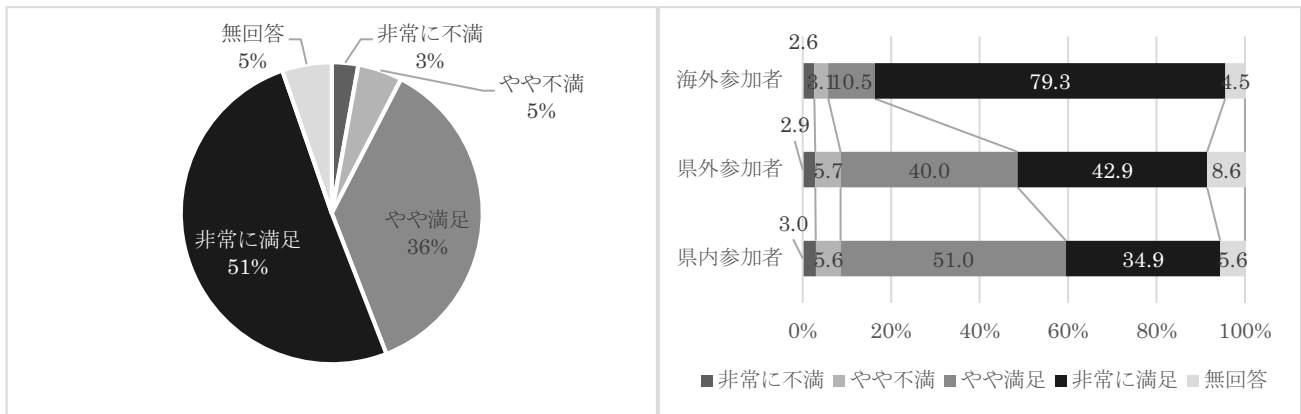


図4.大会満足度

### ③ 大会目標・目的に関する分析

これまで世界のウチナーンチュ大会では、その基本方針（大会目標）として、世界に雄飛する沖縄系の人々の人的ネットワーク（ウチナーンチュネットワーク）を構築することや、次世代への沖縄アイデンティティの継承が掲げられてきた。ここでは、これら大会目標に関する分析を行い、本大会が「ウチナーンチュ」の人々、社会、コミュニティに果たす役割や効果について検証する。

#### 1) ウチナーンチュアイデンティティの分析

「あなたはご自身を「ウチナーンチュ」だと思いますか」と尋ねたところ、79%の人々が自身のことをウチナーンチュだと思っている（「非常にそう思う」と「ややそう思う」の合計）ことが示された。また点数を1点（全くそう思わない）～4点（非常にそう思う）で計算したところ、平均点は3.43（標準偏差 $\sigma=0.90$ ）であり、大会参加者のウチナーンチュアイデンティティが極めて高いことが示された（図5）。

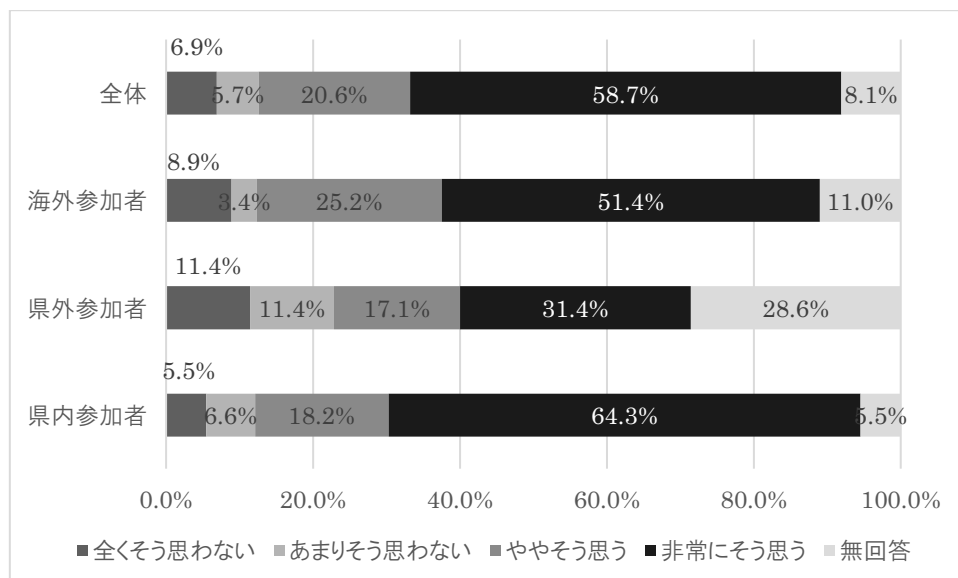


図5.ウチナーンチュアイデンティティ

次に参加者区分別にウチナーンチュアイデンティティを見ると<sup>5</sup>、「そう思わない」の割合は海外参加者の方で多く、「非常にそう思う」の割合は県内参加者で多かった（ $\chi^2(3)=21.08, p<.01$ ）。また平均値でも

<sup>4</sup> 得点のばらつきを示す指標である。値が大きいほど、回答者の点数のばらつきが大きいことを示す。

<sup>5</sup> 県外参加者でやや低い傾向にあった。ただし県外参加者の数が少ないこと、またもともと沖縄出身の人が11名しかいないことから、ここでは県外参加者の回答は除外し、海外参加者と県内参加者のみで比較を行った。



海外参加者が 3.34 であったのに対し、県内参加者は 3.49 と統計的にも有意に高かった ( $t(631.54)=-2.49$ ,  $p<.01$ )<sup>6</sup>。ただし、相対的に海外参加者の方が得点が低いといっても、4 点満点中の 3.34 点であり、海外参加者も高いウチナンチュアイデンティティを保持していると考えられる。

そこで次に、海外参加者のウチナンチュアイデンティティ（図中、沖縄 ID）が移民世代でどのように異なるか、またあわせて自身の居住地（出生地）である現地へのアイデンティティ（図中、現地 ID）との比較も通じ、海外参加者のアイデンティティの特徴について検討を行った。その結果<sup>7</sup>、移民 2 世以降では、ウチナンチュアイデンティティと現地へのアイデンティティに差が見られなかったが、1 世では、現地へのアイデンティティよりもウチナンチュアイデンティティの方が有意に高かった。この結果より、沖縄で生まれ、自身が海外へ移住した 1 世の人々では、相対的にウチナンチュアイデンティティの方が高いのに対し、移民先の国々に生まれた 2 世以降では、現地へのアイデンティティとウチナンチュアイデンティティが同程度に高かった。このことよりウチナンチュアイデンティティは世代を超えて継承されているとともに、2 世以降では、現地とウチナンチュ、2 つのアイデンティティが共存していると考えられる。

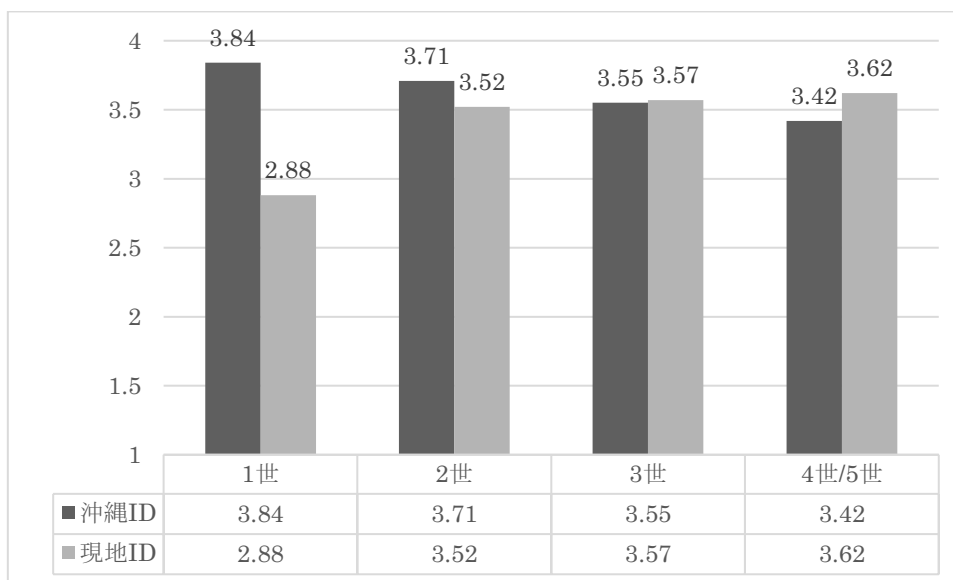


図 6. 海外参加者における現地 ID とウチナンチュ ID の比較

<sup>6</sup> 2 群間の平均値の差を検定するための統計手法である  $t$  検定を使用した。

<sup>7</sup> 統計的に 3 群間以上の平均値の比較を行う分散分析という統計手法を用いた。専門的な書き方になるが、分析の結果、沖縄 ID と現地 ID の間に相違が認められ ( $F(1,186) = 11.13$ ,  $p < .001$ )、また ID × 移民世代の交互作用が有意であった ( $F(3,186) = 10.79$ ,  $p < .001$ )。上の表記は主に交互作用に対する下位検定の結果である。

## 2) ウチナンチュネットワークの分析—大会を通じて生まれた新たなネットワークについて

今大会を通じて、新たなウチナンチュ同士のネットワークが生まれたか、その人数を尋ねた。回答の集計に当たっては、全体の度数の分布の割合から、全くネットワークが生まれなかった「0人」、「1～10人」、「11～30人」、「31～50人」、「50人以上」の5段階に分類しなおした<sup>8</sup>。

参加者区分によって尋ねている項目（ウチナンチュネットワークの種類）が異なるため一括的に評価できないものの、全体的な傾向として、県内参加者では、「0人」の割合が多かった。また構築されたとしても、「1～10人」と少人数がほとんどであった。これらの結果から、県内参加者では、大会を通じてほとんど新たなウチナンチュネットワークが構築されていないことが示された。一方、海外参加者においては、「0人」という人も30%前後いるが、逆の言い方をすれば、70%近くは新たなウチナンチュネットワークを築いていた。また新たなウチナンチュネットワークの創出は全般的に生じており、海外参加者においては、それぞれの国・地域と沖縄をつなぐ母県とのネットワーク、国同士をつなぐ越境的なネットワーク、そして国内や地域内をつなぐローカルなネットワークが構築されたと考えられる。

以上より、大会目標・目的であるウチナンチュネットワークの構築ということを考えると、特に県内の人がネットワークを作る機会としては十分とは言えず、改善の余地が大きいと考えられる。

表 4. 大会を通じて生まれた新たなウチナンチュネットワーク

参加者区分	新たに生まれたウチナンチュネットワーク	0人	1～10人	11～30人	31～50人	50人以上	無回答
海外参加者	住んでいる地域(州・県)の人	40 18.3%	83 38.1%	56 25.7%	17 7.8%	22 10.1%	163 42.8%
	住んでいる国(他州・他県)の人	57 29.8%	76 39.8%	30 15.7%	13 6.8%	15 7.9%	190 49.9%
	沖縄県内の人	62 30.2%	90 43.9%	36 17.6%	5 2.4%	12 5.9%	176 46.2%
	日本国内の人	104 55.6%	66 35.3%	10 5.3%	1 0.5%	6 3.2%	194 50.9%
	他国の人	72 36.5%	83 42.1%	27 13.7%	7 3.6%	8 4.1%	184 48.3%
県内参加者	沖縄県内の人	290 75.3%	69 17.9%	14 3.6%	2 0.5%	10 2.6%	292 43.1%
	日本国内の人	314 83.3%	51 13.5%	8 2.1%	1 0.3%	3 0.8%	300 44.3%
	海外の人	314 79.1%	68 17.1%	9 2.3%	3 0.8%	3 0.8%	280 41.4%

## 4.まとめ

- ・多様な年代、多様な国からの参加があった。海外参加者については、移民世代の変容の傾向も見られる。
- ・参加目的は、参加者区分で異なっており、海外参加者は「沖縄」に触れること、県内参加者は「世界」に触れることが主な目的となっている。
- ・大会満足度は高い。その中でも特に海外参加者の満足度が極めて高い。
- ・大会参加者のウチナンチュアイデンティティは高い。
- ・海外参加者のうち、1世の人々では、相対的にウチナンチュアイデンティティの方が高いのに対し、2世以降では、現地へのアイデンティティとウチナンチュアイデンティティが同程度に高い。ウチナンチュアイデンティティは世代を超えて継承されているとともに、2世以降では、現地とウチナンチュ、2つのアイデンティティが共存していると考えられる。

<sup>8</sup> 全般的に無回答の割合が多く、これらを含めた%で集計すると大幅に回答が歪んでしまう。そこでここでは、無回答を除いた有効データによって分析を行った。また県外参加者の人数が少ないため、ここでも分析から除外した。

- ・大会を通じて新たに生まれたネットワークは、比較的海外参加者が多いものの、県内参加者ではほとんどネットワークの拡大は見られない。「ウチナーンチュネットワークの構築」に関する大会目標・目的については、十分に達成されているとは言えず、交流を促進させるようなプログラムの改善が必要である。

## 5.最後に

調査にご協力いただきました大会参加者の皆様に感謝申し上げます。本報告書は、大会調査の一部をまとめたものであり、今後さらに研究論文として内容を精緻に検討していく予定です。本報告書についてご意見等ございましたら、下記までご連絡ください。なお本調査結果は、まだ正式な公表前の段階のものでありますので、恐れ入りますが、2次利用についてはご遠慮ください。

琉球大学 加藤潤三：[jkato@ll.u-ryukyu.ac.jp](mailto:jkato@ll.u-ryukyu.ac.jp)

# "The 6th Worldwide Uchinanchu Festival" Festival Survey Report

## 1. Research Overview and Purpose

The 6th Worldwide Uchinanchu Festival was held October 26-30, 2016.

The goals of this festival are (1) to develop a network of Uchinanchu through exchange with Uchinanchu from around the world, and to pass this on to the next generation, (2) to deepen understanding of Okinawa's unique soft power, and spread it throughout the country and the world, and (3) to pass on the spirit of the "Bankoku Shinryo" to the next generation, and promote to leave for abroad full of ambition. Many events and programs were held by prefectural and municipal governments, and by various organizations. Over 7,000 people participated from overseas, and a total of around 430,000 people came to the event location, the largest ever number of people (Uchinanchu) participating in this event.

It started out with a parade on the eve of the festival, then there was the opening ceremony, welcome party, events...and finally, the closing ceremony. Beginning with the words, "Welcome back," and "I'm home," lively exchanges took place at every site, building bridges between Uchinanchu that crossed boundaries of location and generation.

Our research team conduct a survey of the 6th Worldwide Uchinanchu Festival participants to find out about the social and psychological aspects of their participation in the event. As part of that, in order to examine the current state of festival participants, and their opinions on the festival and its effects, in this report we summarized and analyzed the following three points<sup>9</sup>.

- ①Analyze the attributes of basic information about survey respondents in order to clarify the status of participants. [What kinds of people participated in the festival?]
- ②Examine the level of satisfaction and dissatisfaction, etc. with the festival of the participants, and evaluate the festival from their viewpoint. [How was the festival?]
- ③Analyze the goal and purpose of the festival (inheritance of the Uchinanchu identity, construction of an Uchinanchu network) and examine the effect of the festival itself on these. [How was the festival helpful for Uchinanchu?]

### Research Organization<sup>10</sup>

#### \*Principal Investigator

Junzo Kato (University of the Ryukyus)

Naoka Maemura (Kobe City University of Foreign Study)

#### \*Co-investigator

Hiroyuki Kinjyo (University of the Ryukyus) Naomi Noiri (University of the Ryukyus)

Kiyoshi Sakai(University of the Ryukyus) Kinuko Yamazato(University of the Ryukyus)

Gustavo Meireles (Sophia University)

#### \*Survey Staff

Ayaka Ishihara, Chiharu Yamashita, University of the Ryukyus Faculty of Law and Letters  
Psychology Course Students 24 students / Kobe City University of Foreign Studies 19 students.

---

<sup>9</sup> This report is part of the general report issued by the festival committee, and has been modified for the use of each country's Okinawa Prefectural Association and relevant institutions within Okinawa.

<sup>10</sup> This research was conducted with the aid of the Ministry of Education, Culture, Sports, Science and Technology Grants -in -aid for Scientific Research (C), Issue Number: 15K04031, Principal Investigator: Junzo Kato, and Grants -in -aid for Young Scientists (B), Issue Number: 16K17296, Principal Investigator: Naoka Maemura)

## 2. Survey Method

### - Survey Participants (Respondents)

We received survey responses from 1,119 festival participants. However, there were some incomplete responses, and from the perspective of appropriateness, the responses of participants under 15 years old were excluded (26 responses), so the final number of valid responses was 1093.

### - Survey Method

The survey was conducted by questionnaire. It was conducted over 3 days, from the second day of the festival to the final day. The survey forms were offered in four languages, Japanese, English, Spanish, and Portuguese, and were conducted on survey forms or tablets. The distribution/collection of survey forms was conducted at booths within the festival venue, and by survey staff who approached festival goers in the surrounding area (Onoyama Park in Okinawa.) Participants who showed a desire to cooperate were asked to fill out the survey forms. Tea was given out as a reward for completing the survey.

### - Survey Items Used in This Report

[Items Related to Demographics]: Participant division, Okinawan ancestry and generation since emigration, location of residence, affiliation with Kenjinkai and frequency of activities, gender, age.

[Items Related to the Festival]: Purpose of participation, level of satisfaction with festival

[Items Related to Effects of Festival]: Identity (Uchinanchu/local), Uchinanchu network

## 3. Survey Results

### ① Analysis of the basic demographics of respondents

#### 1) Respondent Participation Division (Overseas / Outside of Okinawa / Within Okinawa)

Table 1 shows which division respondents categorized themselves as participating from: overseas, outside of Okinawa, and within Okinawa. Note that this survey was directed at people who came to participate in the festival, so the responses of tourists who answered, "I found this Festival by chance while visiting Okinawa," were excluded.

Of the respondents, participants from overseas numbered 381, or 34.9% of all respondents. Responses were received from only 35 participants from outside of Okinawa (3.2%). Of these, 11 people were originally from Okinawa. The largest number of participants, 677, or 61.9% of the total, were from within Okinawa. Table 1 also shows the gender ratio and average age for each participant category. A special point was that the average age of overseas participants was 52.7 years, which was higher than that of participants from outside of Okinawa and within Okinawa. When looking at the detailed age composition of overseas participants, there were many in their 60s and 70s, and only 3 people in the teen age range.

Table 1. Respondent Participation Division

	Freq	%	Gender						Mean Age
			Male		Female		Unknown		
Overseas	381	34.9	146	38.3%	199	52.2%	36	9.4%	52.7
Outside of Okinawa	35	3.2	7	20.0%	24	68.6%	4	11.4%	46.6
Within Okinawa	677	61.9	206	30.4%	436	64.4%	35	5.2%	40.6

**2) Demographics of Participants from Overseas (Okinawan ancestry and generation since emigration, location of residence, affiliation with Okinawa Prefectural Association)**

Detailed demographics of the 381 participants from overseas will be analyzed. Among overseas participants, 253 (66.4%) answered that they had Okinawan ancestry themselves, followed by 57 (15.0%) who said that their families had others of Okinawan ancestry. The remaining 52 (13.6%) included people who answered that they were "invited by Okinawan friends" and "participating in Okinawa activities".(Figure1)

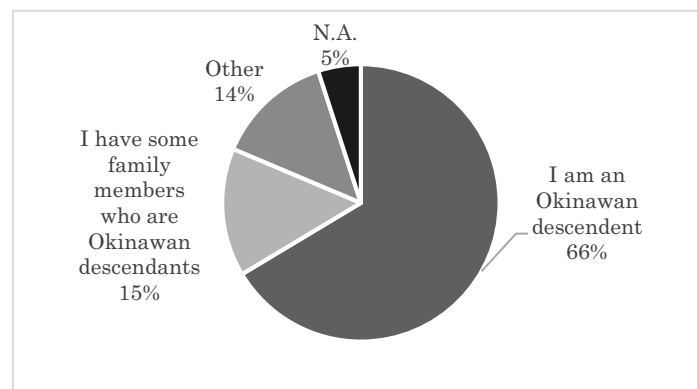


Figure 1. Attributes of Participants from Overseas (Okinawan Ancestry)

Next we analyzed the generation since emigration of overseas participants. There were participants representing everything from the first to the fifth generation since immigration. The ratio of the number of people in each generation is 39 (15.4%) in the first generation (Issei), 66 (26.1%) in the second generation (Nisei), 81 (32.0%) in the third generation (Sansei), 25 (6.6%) in the fourth generation (Yonsei), and 2 (0.8%) in the fifth generation (Gosei). The change in generational composition from the two previous festivals is shown in Figure2. Just as in previous festival, the largest generation since emigration was the third. However, in considering the differences from the previous festival, the percentage of first generation attendees fell while that of fourth generation attendees rose, showing a shift in generational participants from overseas.

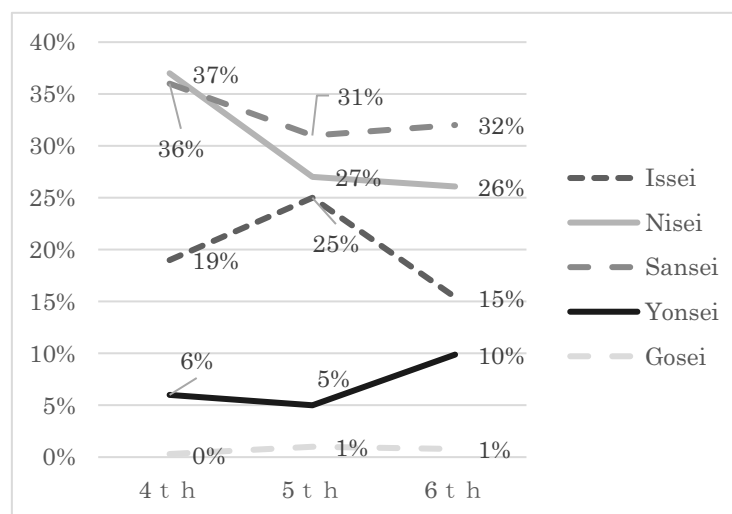


Figure 2. Changes in Generation since Emigration of Overseas Participant

In order to clarify from which country and region the overseas participants came, we analyzed their current places of residence (Table2). The result was that the U.S.A accounted for the most participants, nearly half of the total at 205 people. Among the participants from the United States, 62 were from Hawaii, accounting for about 30% of the total. The next most numerous was Brazil, with 41 participants (10.8%), followed by many South American countries such as Argentina and Peru. Note that "Festival Participant" on the middle right side of Table2 is the number of participants in the 6th Worldwide Uchinanchu Festival, according to the Festival Committee Secretariat. Although Brazil's number of survey respondents is comparatively low (4.6% difference), it seems that the number of survey respondents from each country corresponds roughly to the percentage of the number of actual festival participants by country/region. There were some people who cited Japan as their current place of residence, despite falling under the overseas participant division. These people were originally emigrants who now live in Japan.

Table 2. Place of residence of overseas

Division	Country/ Region	Survey Participants	Festival Participants
North America	U.S.A (Hawaii)	205 (62) (53.8%)	4247 (1861) (58.1%)
	Canada	26 (6.8%)	197 (2.7%)
Central and South America	Brazil	41 (10.8%)	1131 (15.4%)
	Argentina	37 (9.7%)	525 (7.1%)
	Peru	25 (6.6%)	620 (8.4%)
	Bolivia	5 (1.3%)	138 (1.9%)
	Mexico	2 (0.5%)	23 (0.3%)
Asia	Philippines	3 (0.8%)	76 (1.0%)
	Thailand	2 (0.5%)	15 (0.2%)
	Malaysia	2 (0.5%)	4 (0.1%)
	Korea	2 (0.5%)	3 (0.04%)
	Taiwan	1 (0.3%)	16 (0.2%)
	China	1 (0.3%)	39 (0.5%)
Europe	United Kingdom	2 (0.5%)	32 (0.4%)
	Spain	1 (0.3%)	1 (0.01%)
Oceania	New Caledonia	1 (0.3%)	65 (0.9%)
	Japan	17 (4.5%)	
	N.A.	8 (2.1%)	
Sum		381	7353

Overseas participants were asked if they belonged to the local Okinawa Prefectural Association (*Kenjinkai*) in their respective places of residence (Figure3). The result was that 227 people (59.6%) do belong to their local association. When asked about their level of participation in the Okinawa Prefectural Association, about 20% of participants responded, "I rarely participate in the activities," 82 people, or 36.1% responded, "I often participate in the activities," and 80 people, or 35.2% responded, "I participate in almost every activity." This shows that most people who belong to an Okinawa Prefectural Association are actively involved in the association.

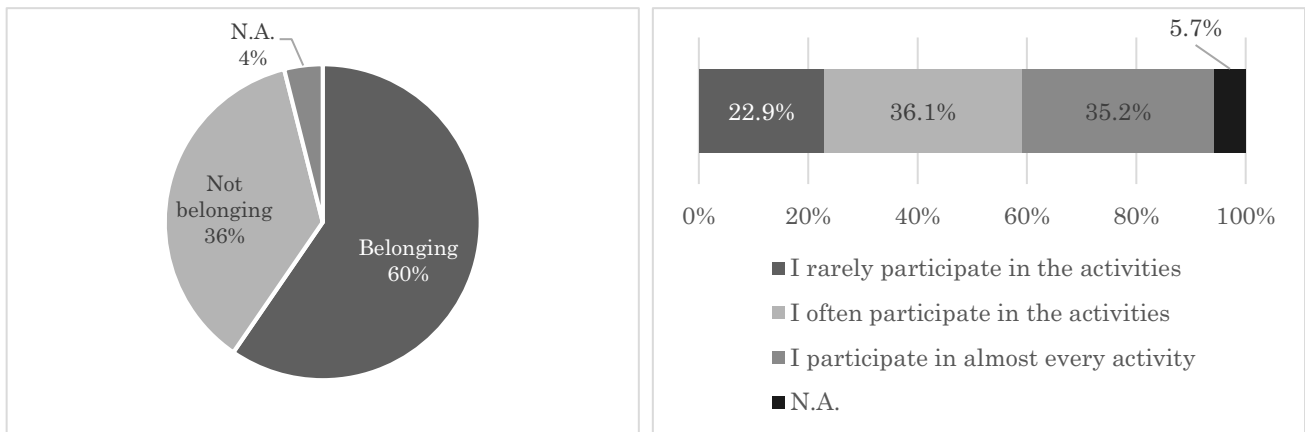


Figure 3. Okinawa Prefectural Association Affiliation and Participation Level of Festival Participants

## ② Analysis of Festival Evaluation

### 1) Purpose of Participation

Respondents were asked about their reasons for participating in the festival. Of course, participants from overseas and participants from within Okinawa had different reasons for participating, so these are analyzed by participation divisions (Table3).

Table 3. Respondent Purpose of Participating in Festival

Purpose of participation	Overseas		Outside of Okinawa		Within Okinawa	
	Freq	%	Freq	%	Freq	%
To find my roots.	112	11.4%	3	3.7%	26	1.6%
To meet Uchinanchus from around the world.	97	9.8%	7	8.6%	201	12.3%
To meet the people of Okinawa.	89	9.0%	5	6.2%	50	3.1%
To meet Uchinanchus of different generations.	20	2.0%	3	3.7%	70	4.3%
To learn about Okinawan culture and traditions.	155	15.7%	11	13.6%	106	6.5%
To learn about various cultures from around the world.	20	2.0%	3	3.7%	229	14.0%
To learn about Uchinanchus from around the world.	56	5.7%	7	8.6%	167	10.2%
To meet relatives.	143	14.5%	2	2.5%	29	1.8%
To meet friends and acquaintances.	81	8.2%	5	6.2%	68	4.2%
To deepen friendships with members of my own Okinawan Association.	17	1.7%	1	1.2%	12	0.7%
Encouraged to participate by family, relatives, friends, Okinawan Association, etc..	64	6.5%	6	7.4%	95	5.8%
To accompany someone.	31	3.1%	3	3.7%	50	3.1%
To participate in events as a performer or watch performances.	66	6.7%	15	18.5%	299	18.3%
To work or to study.	11	1.1%	5	6.2%	126	7.7%
Other	20	2.0%	2	2.5%	41	2.5%
No particular purpose.	5	0.5%	3	3.7%	63	3.9%
Sum	987		81		1632	

Among participants from overseas, the most common responses were, "To learn about Okinawan culture and traditions," (15.7%), "To meet relatives," (14.5%), and, "To find my roots," (11.4%). Among participants from outside Okinawa, the most common responses were, "To learn about Okinawan culture and traditions," (13.6%), and, "To participate in events as a performer or watch performances" (18.5%). Among participants from within Okinawa, the most common responses were, "To participate in events as a performer or watch performances," (18.3%), "To learn about various cultures from around the world," (14.0%), "To meet Uchinanchus from around the world," (12.3%), and "To learn about Uchinanchus from around the world." In broad terms, participants from overseas came to experience Okinawa, while participants from within Okinawa came to experience the world.



## 2) Level of Satisfaction with Festival

87% of participants expressed satisfaction with the 6th Worldwide Uchinanchu Festival (a total of the 553 people (50.6%) who responded "Satisfied," and the 399 people (36.5%) who responded, "A little satisfied.")

Looking at the participation divisions separately, 79.3% of participants from overseas responded, "Satisfied." However, although participants from within Okinawa scored highly on the satisfaction scale overall, 51% answered, "A little satisfied." Regarding this point, it has been confirmed that there is a statistical difference ( $\chi^2(8) = 209.51, p < .01$ )<sup>11</sup>. A series of results showed that the participants' satisfaction with the event was high, which was shown to be particularly pronounced in overseas participants.

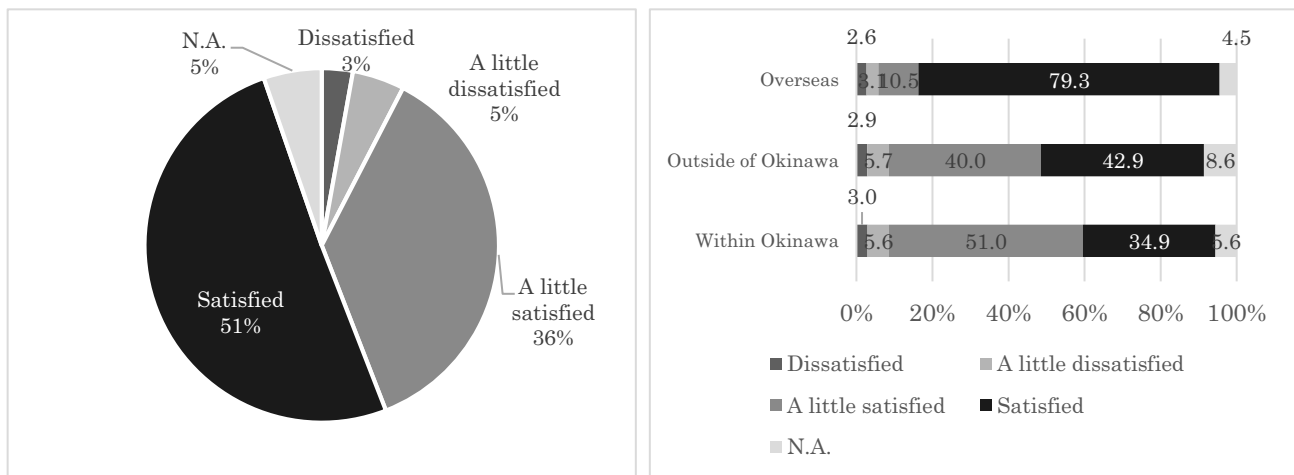


Figure 4. Level of Satisfaction with the Festival

## ③ Analysis of Festival Purpose and Goal

The basic policy (purpose) of the 6th Worldwide Uchinanchu Festival has been to build a human network (Uchinanchu network) of Okinawan people who emigrated overseas, and to pass the Okinawa identity on to the next generation. In this section, we analyze the goals of the festival, and examine the role that this festival plays for the people, society and the community of "Uchinanchu".

### 1) Analysis of Uchinanchu identity

When asked, "Do you think you are an "Uchinanchu"?" 79% of people said that they were (a total of those who responded "Very Much," and "Somewhat." In addition, when calculating points with one point (completely disagree) to four points (very agreeable), the average point is 3.43 (standard deviation = 1.090), indicating that the Uchinanchu identity of the event participants is extremely high. (Figure 5)

<sup>11</sup> To see if there are differences in frequency, we analyzed by statistical method using a sample called a chi-square test.

<sup>12</sup> The index shows scattered scores. The larger the value, the larger the scatter of respondents' scores.

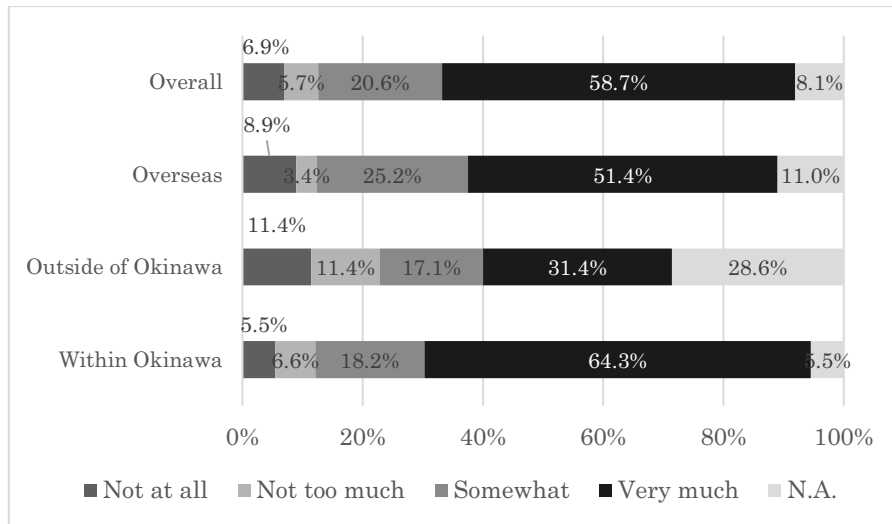


Figure 5. Uchinanchu Identity

Next, when we look at Uchinanchu identity by participant classification, the proportion of response <sup>13</sup> "Somewhat" is greater in overseas participants, while the proportion of response "Very much" is greater among participants from within Okinawa. ( $\chi^2(3) = 21.08, p < .01$ ). Also, the average value was 3.34 for overseas participants, whereas the number of participants from within the prefecture was 3.49, which was also statistically significantly higher ( $t(631.54) = -2.49, p < .01$ )<sup>14</sup>. However, although the score of the overseas participants is relatively low, it is 3.34 points out of four, showing that overseas participants also hold a high level of Uchinanchu identity.

Then, we studied whether the Uchinanchu identity of overseas participants differs among generations since emigration, and how it is affected by the local identity in the participant's place of residence (birthplace). We also examined the characteristics of overseas participants' identity. (Figure 6) The results showed that <sup>15</sup> there were no differences in Uchinanchu identity and local identity in the second and later generations, but in the first generation, the Uchinanchu identity was significantly higher than the local identity. According to this result, in the first generation of people who were born in Okinawa and emigrated abroad, the Uchinanchu identity is relatively high, whereas in the second and later generations, the local identity and Uchinanchu identity were at similar levels. It is evident that Uchinanchu identity has been passed down through the generations, and in the second and later generations, the two identities, local, and Uchinanchu, coexist.

<sup>13</sup> Participants from outside of Okinawa had a tendency towards low scores. However, since the number of participants from outside Okinawa is small, and since there were only 11 people originally from Okinawa, we excluded the responses of participants outside the prefecture and compared only overseas participants with participants in the prefecture.

<sup>14</sup> A t-test, a statistical method for testing the difference in mean value between two groups, was used.

<sup>15</sup> We used a statistical method called analysis of variance (ANOVA) that compares the average value over 3 groups. This will get pretty specialized, but a difference was recognized between Okinawa identity and the local identity ( $F(1,186) = 11.13, p < .001$ ), and the interaction of Identity  $\times$  generation since emigration was significant ( $F(3, 186) = 10.79, p < .001$ ). The notation above is mainly the result of a subordinate test for interaction.

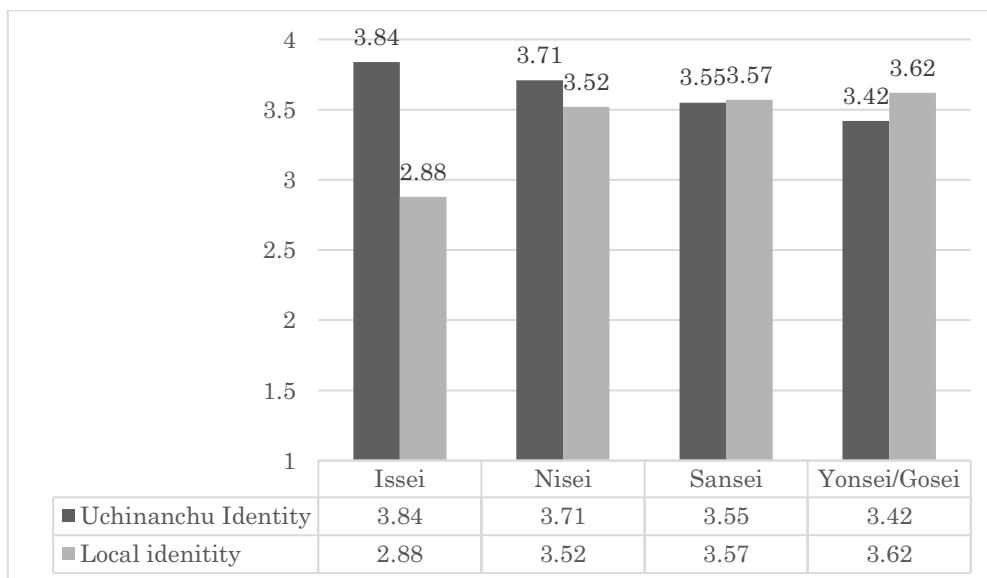


Figure 6. Comparison of Local ID and Uchinanchu ID in Overseas Participants

## 2) Analysis of the Uchinanchu Network: Regarding the New Network Created through the Festival

Participants were asked whether they formed networks with other Uchinanchu through the festival, and how many people the networks have. In aggregating the answers, the proportion of the distribution of total frequencies was revised into 5 groups, "0 people", "1 to 10 people", "11 to 30 people", "31 to 50 people", "50 and Over."<sup>16</sup>

Table 4. New Uchinanchu Networks Created through the Festival

Participants	New Uchinanchu Networks Created through the Festival	0	1~10	11~30	31~50	Over 50	N.A.
Overseas	Those who live in my community (same state / same prefecture)	40 18.3%	83 38.1%	56 25.7%	17 7.8%	22 10.1%	163 42.8%
	Those who live in my country (other states / other prefectures)	57 29.8%	76 39.8%	30 15.7%	13 6.8%	15 7.9%	190 49.9%
	Those who live in Okinawa	62 30.2%	90 43.9%	36 17.6%	5 2.4%	12 5.9%	176 46.2%
	Those who live in Japan	104 55.6%	66 35.3%	10 5.3%	1 0.5%	6 3.2%	194 50.9%
	Those who live in other countries	72 36.5%	83 42.1%	27 13.7%	7 3.6%	8 4.1%	184 48.3%
Within Okinawa	Those who live in Okinawa	290 75.3%	69 17.9%	14 3.6%	2 0.5%	10 2.6%	292 43.1%
	Those who live in Japan	314 83.3%	51 13.5%	8 2.1%	1 0.3%	3 0.8%	300 44.3%
	Those who live overseas	314 79.1%	68 17.1%	9 2.3%	3 0.8%	3 0.8%	280 41.4%

Since the item (Uchinanchu network type) being asked differs by participation division, it cannot be evaluated collectively, but the overall tendency was that there were many "0 people" responses from the participants from within Okinawa. Even when networks were constructed, most were small groups of "1 to 10 people." These results show that, among participants from within Okinawa, almost

<sup>16</sup> A large proportion of responses contained no answers in general, and if percent's were compiled including these, the responses would be significantly distorted. Therefore, we analyzed only valid data, excluding responses with no answer. Also, since there were so few participants from outside Okinawa, these results were also excluded from the analysis.

no new Uchinanchu networks were constructed through the convention. On the other hand, among overseas participants, around 30% responded "0 people", but in other words, nearly 70% have built a new Uchinanchu network. In addition, the creation of new Uchinanchu networks has been happening generally, and overseas participants have networks in each country/region that connect to Okinawa, cross-border networks that connect countries, and domestic and regional networks that connect people locally.

From the above, considering the construction of the Uchinanchu network which is the goal and purpose of the festival, participants from within Okinawa are not taking sufficient advantage of the opportunities for making networks, so there is much room for improvement.

#### **4. Summary**

- Participants were a variety of ages, from a variety of countries. For overseas participants, there is also a tendency toward change in the participation of generations since emigration.
- The purpose of participation changed by participation division: overseas participants came seeking Okinawa, and participants from within Okinawa came seeking the world.
- Satisfaction with the festival was high. In particular, participants from overseas reported an especially high level of satisfaction.
- Festival participants have a high level of Uchinanchu identity.
- Of the overseas participants, the Uchinanchu identity is relatively higher in the first generation to emigrate, whereas in the second and subsequent generations, the local and the Uchinanchu identities are at a similar level. Uchinanchu identity has been passed down through the generations, and in the second and later generations, the two identities, local and Uchinanchu, coexist.
- Networks newly created through the convention have relatively more foreign participants, but almost no network expansion is seen in participants from within Okinawa. The goals and objectives of the festival regarding the "construction of Uchinanchu network" have not been met satisfactorily, and it is necessary to improve programs that promote exchanges.

#### **5. Conclusion**

We are grateful to the many festival participants who cooperated in answering our survey. This report is a summary of a part of the festival survey, and we plan to further study the contents in order to release research papers in the future. If you have any comments about this report, please contact the following. Please note that the results of this survey are still in the formal official release stage, so please refrain from secondary use.

Junzo Kato (University of the Ryukyus)  
E-mail : jkato@ll.u-ryukyu.ac.jp

# Informe de la encuesta del 6º Festival Mundial Uchinachu

## 1. Perspectiva de la investigación y Propósito

El 6º Festival Mundial Uchinachu se llevó a cabo del 26 al 30 de octubre del 2016.

Los objetivos del festival eran (1) desarrollar una red *uchinanchu* a través del intercambio con *uchinanchus* de todo el mundo y legarlo a las siguientes generaciones, (2) profundizar en el entendimiento del poder cultural (o «poder blando») de Okinawa y propagarlo a lo largo del país y el mundo, y (3) transmitir el espíritu del *Bankoku Shinryo* a las siguientes generaciones y promover una gran ambición al salir al extranjero. Muchos de los eventos y programas se llevaron a cabo por el gobierno de la prefectura y municipalidades, además de varias organizaciones. Participaron más de 7000 personas del extranjero y vino un total de aproximadamente 430 000 personas al lugar del evento, la cifra más alta de participantes (*uchinanchus*) congregados en la historia del festival.

Comenzó con un desfile en vísperas del festival, luego hubo una ceremonia de inauguración, una fiesta de bienvenida, diversos eventos... Y, finalmente, la ceremonia de clausura. Comenzando con las palabras, “Bienvenidos de vuelta” y “Estoy en casa”, los animados intercambios tuvieron lugar en todas partes, construyendo puentes entre *uchinanchus* de diferentes lugares y generaciones.

Nuestro equipo de investigación realizó una encuesta sobre los participantes del 6º Festival Mundial Uchinachu para descubrir los aspectos sociales y psicológicos de su participación en el evento. Como parte de ello y con el fin de examinar el estado actual de los participantes del festival, además de sus opiniones del mismo y sus efectos, en este reporte resumimos y analizamos los siguientes tres puntos<sup>17</sup>.

- ① Analizar la información básica sobre las características de los encuestados con el fin de aclarar el estatus de los participantes [¿Qué tipos de personas participaron en el festival?]
- ② Examinar el nivel de satisfacción e insatisfacción con el festival por parte de los participantes y evaluar el festival desde su punto de vista. [¿Cómo estuvo el festival?]
- ③ Analizar el objetivo y propósito del festival (transmisión de la identidad *uchinanchu*, construcción de una red *uchinanchu*) y examinar los efectos del festival en sí. [¿Qué tan útil fue el festival para los *uchinanchus*?]

### Organización de la Investigación<sup>18</sup>

\*Directores del estudio:

Junzo Kato (Universidad de Ryukyu)

Naoka Maemura (Universidad de Estudios Extranjeros de Kobe)

\*Investigadores colaboradores:

Hiroyuki Kinjyo (Universidad de Ryukyu)

Kiyoshi Sakai (Universidad de Ryukyu)

Gustavo Meireles (Universidad Sofía)

Naomi Noiri (Universidad de Ryukyu)

Kinuko Yamazato (Universidad de Ryukyu)

\*Personal de la encuesta:

Ayaka Ishihara, Chiharu Yamashita, Venticuatro alumnos de la Universidad de Ryukyu, Facultad de Derecho y Letras, Curso de Psicología. Diecinueve alumnos de la Universidad de Estudios Extranjeros de Kobe.

<sup>17</sup> Este reporte es parte del reporte general emitido por el comité del festival, y se ha modificado para su uso en las asociaciones okinawenses (*kenjinkai*) de cada país e instituciones relevantes dentro de Okinawa.

<sup>18</sup> Esta encuesta se realizó con el apoyo financiero del Ministerio de Educación, Cultura, Deportes, Ciencia y Tecnología de Japón: Ayuda a la Investigación Científica (C) número de registro 15K04031 (director de investigación: Junzo Kato), y Ayuda a Jóvenes Científicos (B) número de registro 16K17296 (directora de investigación: Naoka Maemura).

## 2. Método de encuesta

### - Participantes de la encuesta (encuestados)

En las encuestas recibimos respuestas de 1119 participantes del festival. Sin embargo, hubo algunas respuestas incompletas, y desde la perspectiva de lo apropiado, se excluyeron las respuestas de los participantes menores de 15 años (26 respuestas). Por lo tanto, el número final de respuestas válidas fue de 1093.

### - Método de encuesta

La encuesta se llevó a cabo a través de un cuestionario. Se realizó por 3 días, desde el segundo día del festival hasta el día final. Se ofrecieron los formularios de encuesta en cuatro idiomas: japonés, inglés, español y portugués, y se hicieron en formularios o tablets. La distribución/recolección de los formularios de encuesta se hizo en puestos dentro del área del festival y por personal de encuesta que se acercó a los asistentes del festival en el área aledaña (Onoyama Park). Se pidió a los participantes que mostraron interés en cooperar que llenaran los formularios. Como gratificación por llenar la encuesta, se les dio té.

### - Elementos de la encuesta usados en este reporte

[Elementos relacionados con la Población]: División de participantes, origen y generación okinawense desde la emigración, lugar de residencia, afiliación con los *kenjinkai* y la frecuencia de actividades, género y edad.

[Elementos relacionados con el festival]: Propósito de participación, nivel de satisfacción con el festival

[Elementos relacionados con los efectos del festival]: Identidad (*uchinanchu*/local), red de *uchinanchus*

## 3. Resultados de la Encuesta

### ① Análisis de la demografía básica de los encuestados

#### 1) División de la participación de los encuestados (Extranjero / Japón / Okinawa)

La tabla 1 muestra qué división de encuestados se categorizaron como participantes de: el extranjero, Japón (fuera de Okinawa) y el interior de Okinawa. Note que esta encuesta estuvo dirigida a personas que vinieron a participar en el festival; así, se excluyeron las respuestas de los turistas que respondieron “Encontré este festival por casualidad mientras visitaba Okinawa”.

De los encuestados, el número de participantes del extranjero ascendió a 381, o 34.9% de todos los encuestados. Se recibieron respuestas de solo 35 participantes de Japón, fuera de Okinawa (3.2%). De estas, 11 personas eran originalmente de Okinawa. El número más grande de participantes, 677, o el 61.9% del total, eran del interior de Okinawa. La tabla 1 también muestra la proporción por género y la edad promedio para cada categoría de participantes. Un aspecto especial fue que la edad promedio de los participantes del extranjero fue de 52.7 años, la cual fue más alta que la de los participantes de Japón o de Okinawa. Al buscar una composición por edad detallada de los participantes del extranjero, había muchas personas de 60 y 70 años de edad, y solo 3 en el grupo en edad adolescente.

Tabla 1. División de participación de encuestados

	Frec	%	Género						Edad Princ
			Masculino		Femenino		Desconocido		
Extranjero	381	34.9	146	38.30%	199	52.20%	36	9.40%	52.7
Fuera de Okinawa	35	3.2	7	20.00%	24	68.60%	4	11.40%	46.6
Interior de Okinawa	677	61.9	206	30.40%	436	64.40%	35	5.20%	40.6

**2) Datos demográficos de los participantes del extranjero (División de participantes, de origen y generación okiwanesa desde la emigración, lugar de residencia, afiliación con la *kenkjinakai*/Asociación de la Prefectura de Okinawa)**

Se analizarán los datos demográficos al detalle de los 381 participantes del extranjero. De entre los participantes del extranjero, 253 (66.4%) respondieron que tenían ascendencia okiwanense, seguidos por 57 (15.0%) que dijeron que tenían familiares descendientes de okiwanenses. Los 52 restantes (13.6%) incluyen a personas que respondieron que fueron "invitados por amigos okiwanenses" y "participaron en actividades de Okiwana". (Figura1)

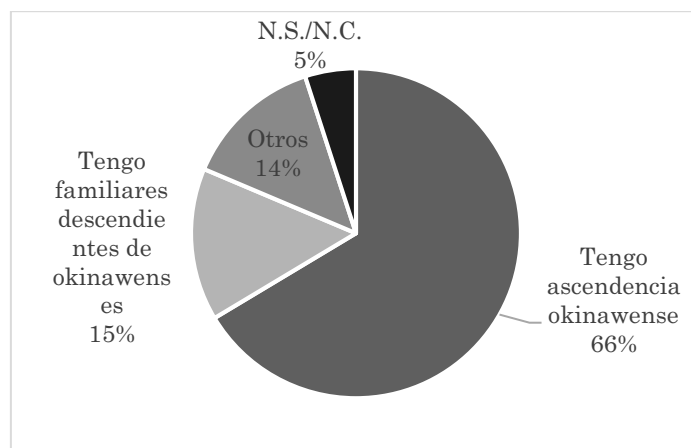


Figura 1. Atributos de los participantes del extranjero (ascendencia okiwanense)

A continuación, analizamos la generación de emigrantes a la que pertenecen los participantes del extranjero. Hubo participantes que representaban desde la primera hasta la quinta generación de migrantes. La proporción del número de personas en cada generación es de 39 (15.4%) en la primera generación (*issei*), 66 (26.1%) en la segunda generación (*nisei*), 81 (32.0%) en la tercera generación (*sansei*), 25 (6.6%) en la cuarta generación (*yonsei*), y 2 (0.8%) en la quinta generación (*gosei*). El cambio en la composición generacional de los dos festivales previos se muestra en la Figura2. Como en el festival anterior, la generación más numerosa fue la tercera. Sin embargo, al considerar las diferencias con el festival anterior, el porcentaje de los asistentes de la primera generación descendió, mientras que la de los asistentes de la cuarta generación ascendió, mostrando un cambio generacional en los participantes del extranjero.

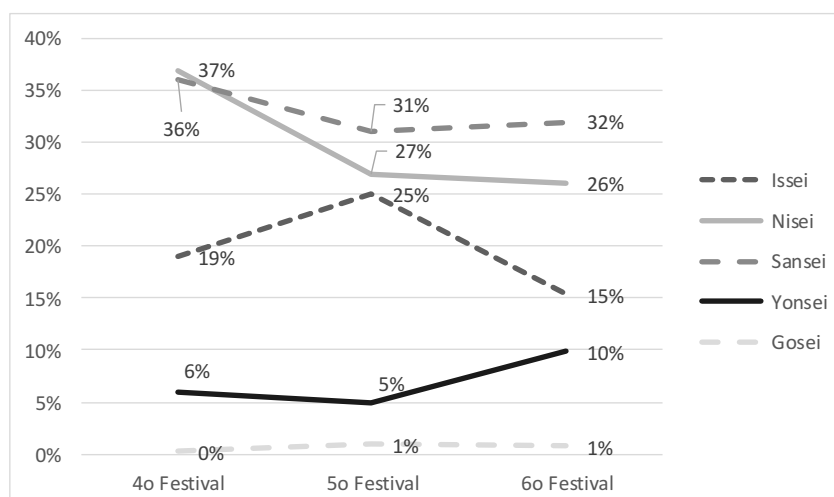


Figura 2. Cambios en la generación de los participantes del Extranjero

Con el fin de aclarar de qué país o región vinieron los participantes del extranjero, analizamos sus lugares de residencia actuales (Tabla 2). El resultado fue que los EE.UU. contabilizaron la mayoría de los participantes, cerca de la mitad de un total de 205 personas. Entre los participantes de los Estados Unidos, 62 eran de Hawái, contabilizando cerca del 30% del total. El siguiente contingente más numeroso era el de Brasil, con 41 participantes (10.8%), seguido por varios países sudamericanos como Argentina y Perú. Note que el "Participante del Festival" en la parte de en medio a la derecha de la Tabla 2 es el número de participantes en el 6º Festival Mundial Uchinanchu, según la Secretaría de la Comisión del Festival. Aunque el número de encuestados de Brasil es relativamente bajo (4.6% de diferencia), parece que el número de encuestados de cada país corresponde aproximadamente al porcentaje del número de participantes reales del festival por país/región. Hubo algunas personas que mencionaron Japón como su lugar actual de residencia, a pesar de entrar en la división de participantes del extranjero. Estas personas fueron originalmente emigrantes que ahora viven en Japón.

Tabla 2. Lugar de residencia en el extranjero

Continente	País/Región	Participantes de la encuesta	Participantes del festival
América del Norte	EE.UU. (Hawái)	205 (53.8%) (62)	4247 (58.1%) (1861)
	Canadá	26 (6.8%)	197 (2.7%)
América Central y del Sur	Brasil	41 (10.8%)	1131 (15.4%)
	Argentina	37 (9.7%)	525 (7.1%)
	Perú	25 (6.6%)	620 (8.4%)
	Bolivia	5 (1.3%)	138 (1.9%)
	México	2 (0.5%)	23 (0.3%)
Asia	Filipinas	3 (0.8%)	76 (1.0%)
	Tailandia	2 (0.5%)	15 (0.2%)
	Malasia	2 (0.5%)	4 (0.1%)
	Corea del Sur	2 (0.5%)	3 (0.04%)
	Taiwán	1 (0.3%)	16 (0.2%)
	China	1 (0.3%)	39 (0.5%)
Europe	Reino Unido	2 (0.5%)	32 (0.4%)
	España	1 (0.3%)	1 (0.0%)
Oceanía	Nueva Caledonia	1 (0.3%)	65 (0.9%)
	Japón	17 (4.5%)	
	N.S./N.C.	8 (2.1%)	
Total		381	7353

Se les preguntó a los participantes del extranjero si pertenecían a la Asociación de la Prefectura de Okinawa (*kenjinkai*) en sus respectivos lugares de residencia (Figura3). El resultado fue que 227 personas (59.6%) sí pertenecen a su asociación local. Cuando se les preguntó sobre su nivel de participación en la Asociación de la Prefectura de Okinawa, cerca del 20% de los participantes respondieron "Rara vez participo en las actividades", 82 personas o 36.1% respondieron "Suelo participar en las actividades", y 80 personas o 35.2% respondieron "Participo en casi todas las actividades". Esto muestra que la mayoría de las personas que pertenecen a una Asociación de la Prefectura de Okinawa participante de forma activa en la asociación.



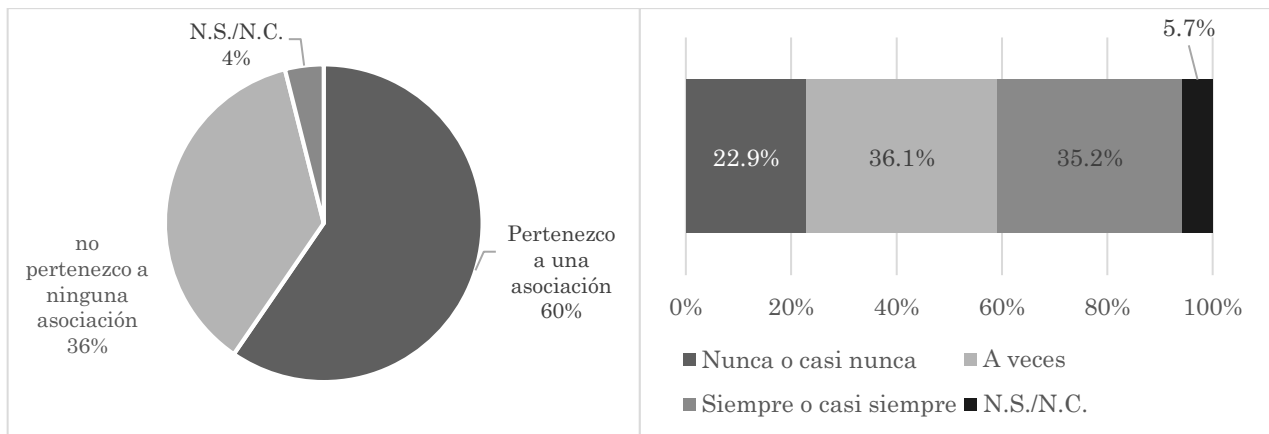


Figura 3. Afiliación a la Asociación de la Prefectura de Okinawa y el Nivel de Participación de los Participantes del Festival

## ② Análisis de la evaluación del festival

### 1) Propósito de la participación

Se les preguntó a los encuestados sobre las razones por las que participaron en el festival. Por supuesto, los participantes del extranjero y del interior de Okinawa tuvieron razones diferentes para participar, por lo cual esto se analiza por divisiones de participación (Tabla 3).

Tabla 3. Propósito del encuestado para participar en el Festival

Propósito de la Participación	Extranjero		Fuera de Okinawa		Interior de Okinawa	
	Frec	%	Frec	%	Frec	%
Conocer / Confirmar mis raíces	112	11.4%	3	3.7%	26	1.6%
Relacionarme con <i>uchinanchus</i> de diferentes países	97	9.8%	7	8.6%	201	12.3%
Relacionarme con los habitantes de Okinawa	89	9.0%	5	6.2%	50	3.1%
Relacionarme con <i>uchinanchus</i> de diferentes generaciones	20	2.0%	3	3.7%	70	4.3%
Aprender la cultura y tradiciones de Okinawa	155	15.7%	11	13.6%	106	6.5%
Tener contacto con diversas culturas de todo el mundo	20	2.0%	3	3.7%	229	14.0%
Aprender acerca de la emigración okinawense y sus descendientes en todo el mundo	56	5.7%	7	8.6%	167	10.2%
Encontrarme con mis parientes	143	14.5%	2	2.5%	29	1.8%
Encontrarme con amigos y conocidos	81	8.2%	5	6.2%	68	4.2%
Reforzar mi relación de amistad con otros miembros del <i>kenjinkai</i>	17	1.7%	1	1.2%	12	0.7%
Personas de mi alrededor (familia, parientes, amigos, <i>kenjinkai</i> ...) me invitaron a venir	64	6.5%	6	7.4%	95	5.8%
Acompañar a otro/a participante	31	3.1%	3	3.7%	50	3.1%
Participar en alguna de las actividades del festival (como artista o parte del público)	66	6.7%	15	18.5%	299	18.3%
Estudiar o trabajar	11	1.1%	5	6.2%	126	7.7%
Otros	20	2.0%	2	2.5%	41	2.5%
No tengo un motivo concreto (vine por casualidad)	5	0.5%	3	3.7%	63	3.9%
<b>Total</b>	<b>987</b>		<b>81</b>		<b>1632</b>	

Entre los participantes del extranjero, las respuestas más comunes fueron "aprender la cultura y tradiciones de Okinawa" (15.7%), "encontrarme con mis parientes" (14.5%) y "conocer/confirmar mis raíces" (11.4%). Entre los participantes de otras prefecturas de Japón, las respuestas más comunes fueron "aprender la cultura y tradiciones de Okinawa" (13.6%) y "participar en actividades como artista o público" (18.5%). Entre los participantes de Okinawa, las respuestas más comunes fueron "participar en actividades como artista o público" (18.3%), "tener contacto con diversas culturas de todo el mundo" (14.0%), "relacionarme con *uchinanchus* de diferentes países" (12.3%), y "aprender acerca de la emigración okinawense y sus descendientes en todo el mundo". En términos generales, los participantes del extranjero vinieron a conocer de cerca Okinawa, mientras que los participantes de Okinawa vinieron a conocer otras partes del mundo.

## 2) Nivel de satisfacción con el festival

El 87% de los participantes expresó satisfacción con el 6º Festival Mundial Uchinanchu (correspondiente a la suma de las 553 personas (50.6%) que respondieron estar "muy satisfechos" y las 399 personas (36.5%) que respondieron estar "bastante satisfechos").

Al echar un vistazo por separado a las categorías de los participantes, el 79.3% de los visitantes del extranjero respondió que estaba "muy satisfecho". Sin embargo, aunque los participantes del interior de Okinawa alcanzan una puntuación alta en la escala global de satisfacción, el 51% respondió estar "bastante satisfecho". Respecto a esta cuestión, se ha confirmado que hay una diferencia estadística ( $\chi^2(8) = 209.51, p < .01$ )<sup>19</sup>. Una serie de resultados mostró que la satisfacción de los participantes con el evento fue alta, lo cual parece estar marcado de forma particular en los participantes del extranjero.

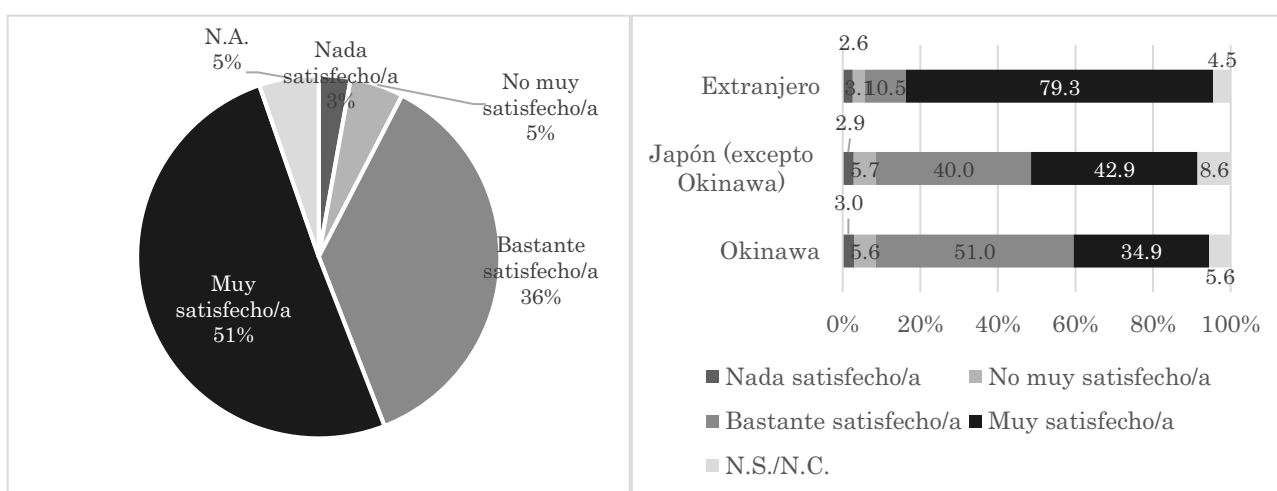


Figura 4. Nivel de satisfacción con el festival

## ③ Análisis del Propósito y Objetivo del Festival

La línea básica (propósito) del 6º Festival Mundial Uchinanchu ha sido construir una red humana (red *uchinanchu*) de personas okinawenses que emigraron al extranjero, y transmitir la identidad de Okinawa a las siguientes generaciones. En esta sección analizamos los objetivos del festival y examinamos el rol que desempeña este festival para las personas, la sociedad y la comunidad *uchinanchu*.

### 1) Análisis de la identidad *uchinanchu*

Ante la afirmación "Me considero *uchinanchu*", el 79% de las personas dijo estar de acuerdo (sumando los que estaban "bastante" y "totalmente" de acuerdo). Además, cuando se puntúan las respuestas en una escala de 1 ("en desacuerdo") a 4 puntos ("totalmente de acuerdo"), la puntuación promedio es de 3.43 (desviación estándar<sup>20</sup>=0.90), lo cual indica que la identidad *uchinanchu* de los participantes del evento es extremadamente alta (Figura 5).

<sup>19</sup> Para ver si hay diferencias en la frecuencia, analizamos a través de un método estadístico usando una muestra llamada prueba ji cuadrado.

<sup>20</sup> El índice muestra puntuaciones esparcidas. Cuanto más grande sea el valor, más grande es la distribución de las puntuaciones de los encuestados.

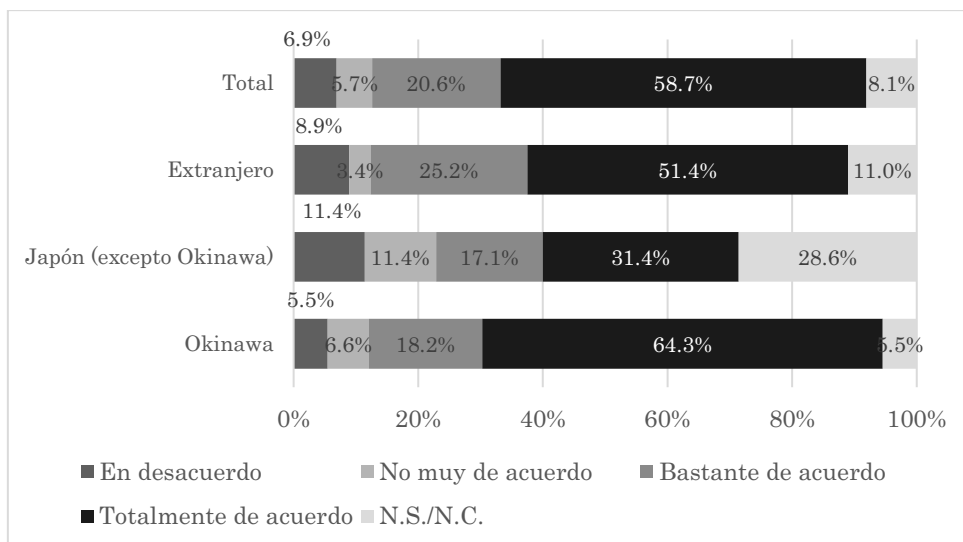


Figura 5. Identidad Uchinanchu

Cuando miramos la identidad *uchinanchu* por clasificación de participantes<sup>21</sup>, la proporción de la respuesta "no muy de acuerdo" fue mayor entre los participantes del extranjero, mientras que la proporción de la respuesta "totalmente de acuerdo" es más grande entre los participantes del interior de Okinawa ( $\chi^2(3) = 21.08, p < .01$ ). Asimismo, el valor promedio fue de 3.34 para los participantes del extranjero, mientras que el número de participantes del interior de la prefectura fue de 3.49, el cual fue, estadísticamente hablando, notablemente más alto ( $t(631.54) = -2.49, p < .01$ )<sup>22</sup>. Sin embargo, aunque los participantes del extranjero alcanzan una puntuación relativamente baja, es de 3.34 puntos sobre cuatro, mostrando que los participantes del extranjero también cuentan con un alto nivel de identidad *uchinanchu*.

Seguidamente estudiamos si la identidad *uchinanchu* de los participantes del extranjero difiere entre generaciones de migrantes, y cómo se ve afectado por la identidad local en el lugar de residencia (o de nacimiento del participante). También examinamos las características de la identidad de los participantes del extranjero (Figura 6). Los resultados<sup>23</sup> mostraron que no había diferencias en la identidad *uchinanchu* y las identidades locales a partir de la segunda generación, pero en la primera generación la identidad *uchinanchu* fue significativamente mayor que la identidad local. De acuerdo a este resultado, en la primera generación de personas que nacieron en Okinawa y emigraron al extranjero, la identidad de *uchinanchu* es relativamente alta, mientras que la segunda generación y posteriores, la identidad local y la identidad de *uchinanchu* estaban a niveles similares. Es evidente que la identidad *uchinanchu* se ha transmitido a través de las generaciones, y en la segunda generación y siguientes, coexisten las dos identidades.

<sup>21</sup> Los participantes de otras zonas de Japón tuvieron una tendencia hacia las bajas puntuaciones. Sin embargo, dado que el número de participantes de fuera de Okinawa fue bajo y que solo 11 personas era de origen okinawense, excluimos las respuestas de los participantes de otras prefecturas y comparamos solo a los participantes del extranjero con los que están en la prefectura de Okinawa.

<sup>22</sup> Se usó una prueba T, un método de estadística para probar la diferencia en el valor principal entre dos grupos.

<sup>23</sup> Usamos un método de estadística llamado análisis de la varianza (ANOVA) que compara solo a los participantes con los que están en la prefectura. Esto se volverá muy especializado, pero se reconoce la diferencia entre la identidad de Okinawa y la identidad local ( $F(1,186) = 11.13, p < .001$ ), y la correlación entre la identidad y la generación de migrantes fue estadísticamente significativa ( $F(3, 186) = 10.79, p < .001$ ). La notación anterior es principalmente el desarrollo de una prueba subordinada por interacción.

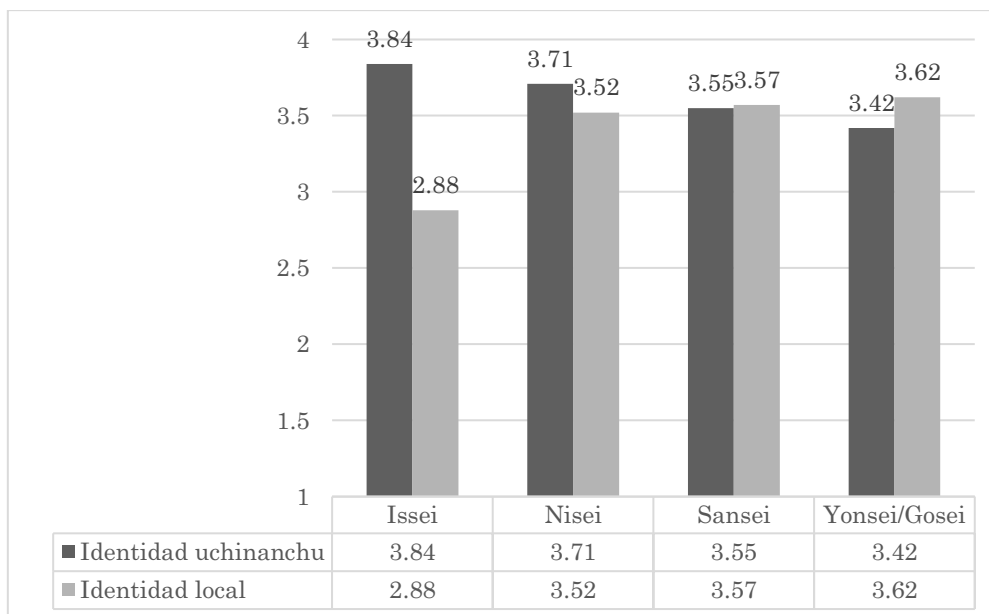


Figura 6. Comparación de la identidad local y la identidad okinawense en participantes del extranjero

## 2) Análisis de la red *uchinanchu*: creación de nuevas redes en el festival

Se les preguntó a los participantes si han formado vínculos con otros *uchinanchus* durante el festival, y cuántas personas forman su red de relaciones. Al recopilar las respuestas, la proporción de la distribución de las frecuencias totales se revisaron en 5 grupos: "0 personas", "1 a 10 personas", "11 a 30 personas", "31 a 50 personas" y "50 y mayores".<sup>24</sup>

Tabla 4. Se crean nuevas redes uchinanchu durante el festival

Participantes	Nuevas redes entre uchinanchus creadas en el festival	0	1~10	11~30	31~50	Más de 50	N.S./N.C.
Extranjero	Residentes en mi región (estado/provincia)	40 18.3%	83 38.1%	56 25.7%	17 7.8%	22 10.1%	163 42.8%
	Residentes en mi país (de otro estado/provincia)	57 29.8%	76 39.8%	30 15.7%	13 6.8%	15 7.9%	190 49.9%
	Residentes en la prefectura de Okinawa	62 30.2%	90 43.9%	36 17.6%	5 2.4%	12 5.9%	176 46.2%
	Residentes en Japón	104 55.6%	66 35.3%	10 5.3%	1 0.5%	6 3.2%	194 50.9%
	Residentes de otros países	72 36.5%	83 42.1%	27 13.7%	7 3.6%	8 4.1%	184 48.3%
	Interior de Okinawa	Residentes en la prefectura de Okinawa	290 75.3%	69 17.9%	14 3.6%	2 0.5%	10 2.6%
Residentes en Japón		314 83.3%	51 13.5%	8 2.1%	1 0.3%	3 0.8%	300 44.3%
Residentes de otros países		314 79.1%	68 17.1%	9 2.3%	3 0.8%	3 0.8%	280 41.4%

Dado que la respuesta (tipo de red *uchinanchu*) que se solicita difiere según la categoría del participante, no puede evaluarse de forma colectiva. Sin embargo, la tendencia en general fue de que había muchas respuestas de "0 personas" de los participantes residentes en Okinawa. Aun cuando se construyeron redes de relaciones, la mayoría eran grupos pequeños. Estos resultados muestran que,

<sup>24</sup> En general una gran proporción de respuestas quedaron en blanco. Si se hubieran incluido estas respuestas nulas, los porcentajes hubiera quedado deformados de forma significativa. Por lo tanto, analizamos solo los datos válidos. Además, las respuestas de otras prefecturas japonesas también fueron excluidos del análisis.

entre los participantes del interior de Okinawa, casi no se construyeron nuevas redes *uchinanchu* durante la convención. Por otra parte, entre los participantes del extranjero, cerca del 30% respondió "0 personas"; pero esto, en otras palabras, significa que cerca del 70% ha construido una nueva red *uchinanchu*. Además, la creación de nuevas redes de *uchinanchus* ha ocurrido de forma generalizada. Los participantes del extranjero tienen redes en cada país/region que están conectadas a Okinawa, redes transfronterizas que conectan países, así como redes nacionales y regionales que conectan a la gente de forma local.

De todo lo anterior, y considerando que la construcción de la red *uchinanchu* era el objetivo y propósito del festival, se puede concluir que los participantes que viven en Okinawa no están aprovechando las oportunidades para la creación de redes. Se trata de un ámbito en el que aún hay mucho por mejorar.

#### **4. Resumen**

- Los participantes eran de una gran variedad de edades y países. De los participantes del extranjero, hubo también una tendencia hacia el cambio generacional.
- El propósito de participación difiere según la característica de los participantes. Los participantes del extranjero vinieron a tener contacto con Okinawa y los residentes de Okinawa vinieron a conocer otras partes del mundo.
- La satisfacción con el festival fue alta. En particular, los residentes en el extranjero reportaron un nivel muy alto de satisfacción.
- La identidad *uchinanchu* de los asistentes fue sumamente alta.
- De los participantes del extranjero, la identidad *uchinanchu* es relativamente alta, mientras que en las siguientes generaciones las identidades locales y *uchinanchu* están a un nivel similar. La identidad de *uchinanchu*, que se ha transmitido a través de las generaciones, coexiste a partir de la segunda generación con la identidad local.
- Las redes que recién fueron creadas en el festival tienen relativamente más participantes extranjeros, pero no se ha registrado casi ninguna ampliación de la red de relaciones entre los residentes de Okinawa. Las metas y objetivos del festival respecto a la "construcción de la red *uchinanchu*" no se ha cumplido satisfactoriamente, y es necesario mejorar los programas que promuevan los intercambios.

#### **5. Conclusión**

Estamos agradecidos con los muchos participantes del festival que cooperaron para responder nuestra encuesta. Este reporte es un sumario de una parte de la encuesta del festival y planeamos examinar de forma adicional los contenidos con el fin de lanzar informes de investigación en el futuro. Si usted tiene algún comentario sobre este informe, por favor póngase en contacto a través del correo facilitado abajo. Por favor, tenga en cuenta que los resultados de esta encuesta todavía no han sido publicados oficialmente, así que les pedimos que no usen todavía los datos aquí presentados.

Junzo Kato (Universidad de las Ryukyus)

Correo : jkato@ll.u-ryukyu.ac.jp

# Informe de la encuesta del 6° Festival Mundial Uchinachu

## 1. Perspectiva de la investigación y Propósito

El 6° Festival Mundial Uchinachu se llevó a cabo del 26 al 30 de octubre del 2016.

Los objetivos del festival eran (1) desarrollar una red *uchinanchu* a través del intercambio con *uchinanchus* de todo el mundo y legarlo a las siguientes generaciones, (2) profundizar en el entendimiento del poder cultural (o «poder blando») de Okinawa y propagarlo a lo largo del país y el mundo, y (3) transmitir el espíritu del *Bankoku Shinryo* a las siguientes generaciones y promover una gran ambición al salir al extranjero. Muchos de los eventos y programas se llevaron a cabo por el gobierno de la prefectura y municipalidades, además de varias organizaciones. Participaron más de 7000 personas del extranjero y vino un total de aproximadamente 430 000 personas al lugar del evento, la cifra más alta de participantes (*uchinanchus*) congregados en la historia del festival.

Comenzó con un desfile en vísperas del festival, luego hubo una ceremonia de inauguración, una fiesta de bienvenida, diversos eventos... Y, finalmente, la ceremonia de clausura. Comenzando con las palabras, “Bienvenidos de vuelta” y “Estoy en casa”, los animados intercambios tuvieron lugar en todas partes, construyendo puentes entre *uchinanchus* de diferentes lugares y generaciones.

Nuestro equipo de investigación realizó una encuesta sobre los participantes del 6° Festival Mundial Uchinachu para descubrir los aspectos sociales y psicológicos de su participación en el evento. Como parte de ello y con el fin de examinar el estado actual de los participantes del festival, además de sus opiniones del mismo y sus efectos, en este reporte resumimos y analizamos los siguientes tres puntos<sup>25</sup>.

- ① Analizar la información básica sobre las características de los encuestados con el fin de aclarar el estatus de los participantes [¿Qué tipos de personas participaron en el festival?]
- ② Examinar el nivel de satisfacción e insatisfacción con el festival por parte de los participantes y evaluar el festival desde su punto de vista. [¿Cómo estuvo el festival?]
- ③ Analizar el objetivo y propósito del festival (transmisión de la identidad *uchinanchu*, construcción de una red *uchinanchu*) y examinar los efectos del festival en sí. [¿Qué tan útil fue el festival para los *uchinanchus*?]

### Organización de la Investigación<sup>26</sup>

\*Directores del estudio:

Junzo Kato (Universidad de Ryukyu)

Naoka Maemura (Universidad de Estudios Extranjeros de Kobe)

\*Investigadores colaboradores:

Hiroyuki Kinjyo (Universidad de Ryukyu)

Kiyoshi Sakai (Universidad de Ryukyu)

Gustavo Meireles (Universidad Sofía)

Naomi Noiri (Universidad de Ryukyu)

Kinuko Yamazato (Universidad de Ryukyu)

\*Personal de la encuesta:

Ayaka Ishihara, Chiharu Yamashita, Venticuatro alumnos de la Universidad de Ryukyu, Facultad de Derecho y Letras, Curso de Psicología. Diecinueve alumnos de la Universidad de Estudios Extranjeros de Kobe.

<sup>25</sup> Este reporte es parte del reporte general emitido por el comité del festival, y se ha modificado para su uso en las asociaciones okinawenses (*kenjinkai*) de cada país e instituciones relevantes dentro de Okinawa.

<sup>26</sup> Esta encuesta se realizó con el apoyo financiero del Ministerio de Educación, Cultura, Deportes, Ciencia y Tecnología de Japón: Ayuda a la Investigación Científica (C) número de registro 15K04031 (director de investigación: Junzo Kato), y Ayuda a Jóvenes Científicos (B) número de registro 16K17296 (directora de investigación: Naoka Maemura).

## 2. Método de encuesta

### - Participantes de la encuesta (encuestados)

En las encuestas recibimos respuestas de 1119 participantes del festival. Sin embargo, hubo algunas respuestas incompletas, y desde la perspectiva de lo apropiado, se excluyeron las respuestas de los participantes menores de 15 años (26 respuestas). Por lo tanto, el número final de respuestas válidas fue de 1093.

### - Método de encuesta

La encuesta se llevó a cabo a través de un cuestionario. Se realizó por 3 días, desde el segundo día del festival hasta el día final. Se ofrecieron los formularios de encuesta en cuatro idiomas: japonés, inglés, español y portugués, y se hicieron en formularios o tablets. La distribución/recolección de los formularios de encuesta se hizo en puestos dentro del área del festival y por personal de encuesta que se acercó a los asistentes del festival en el área aledaña (Onoyama Park). Se pidió a los participantes que mostraron interés en cooperar que llenaran los formularios. Como gratificación por llenar la encuesta, se les dio té.

### - Elementos de la encuesta usados en este reporte

[Elementos relacionados con la Población]: División de participantes, origen y generación okinawense desde la emigración, lugar de residencia, afiliación con los *kenjinkai* y la frecuencia de actividades, género y edad.

[Elementos relacionados con el festival]: Propósito de participación, nivel de satisfacción con el festival

[Elementos relacionados con los efectos del festival]: Identidad (*uchinanchu*/local), red de *uchinanchus*

## 3. Resultados de la Encuesta

### ① Análisis de la demografía básica de los encuestados

#### 1) División de la participación de los encuestados (Extranjero / Japón / Okinawa)

La tabla 1 muestra qué división de encuestados se categorizaron como participantes de: el extranjero, Japón (fuera de Okinawa) y el interior de Okinawa. Note que esta encuesta estuvo dirigida a personas que vinieron a participar en el festival; así, se excluyeron las respuestas de los turistas que respondieron “Encontré este festival por casualidad mientras visitaba Okinawa”.

De los encuestados, el número de participantes del extranjero ascendió a 381, o 34.9% de todos los encuestados. Se recibieron respuestas de solo 35 participantes de Japón, fuera de Okinawa (3.2%). De estas, 11 personas eran originalmente de Okinawa. El número más grande de participantes, 677, o el 61.9% del total, eran del interior de Okinawa. La tabla 1 también muestra la proporción por género y la edad promedio para cada categoría de participantes. Un aspecto especial fue que la edad promedio de los participantes del extranjero fue de 52.7 años, la cual fue más alta que la de los participantes de Japón o de Okinawa. Al buscar una composición por edad detallada de los participantes del extranjero, había muchas personas de 60 y 70 años de edad, y solo 3 en el grupo en edad adolescente.

Tabla 1. División de participación de encuestados

	Frec	%	Género						Edad Princ
			Masculino		Femenino		Desconocido		
Extranjero	381	34.9	146	38.30%	199	52.20%	36	9.40%	52.7
Fuera de Okinawa	35	3.2	7	20.00%	24	68.60%	4	11.40%	46.6
Interior de Okinawa	677	61.9	206	30.40%	436	64.40%	35	5.20%	40.6

**2) Datos demográficos de los participantes del extranjero (División de participantes, de origen y generación okiwanesa desde la emigración, lugar de residencia, afiliación con la *kenkjinakai*/Asociación de la Prefectura de Okinawa)**

Se analizarán los datos demográficos al detalle de los 381 participantes del extranjero. De entre los participantes del extranjero, 253 (66.4%) respondieron que tenían ascendencia okiwanense, seguidos por 57 (15.0%) que dijeron que tenían familiares descendientes de okiwanenses. Los 52 restantes (13.6%) incluyen a personas que respondieron que fueron "invitados por amigos okiwanenses" y "participaron en actividades de Okiwana". (Figura1)

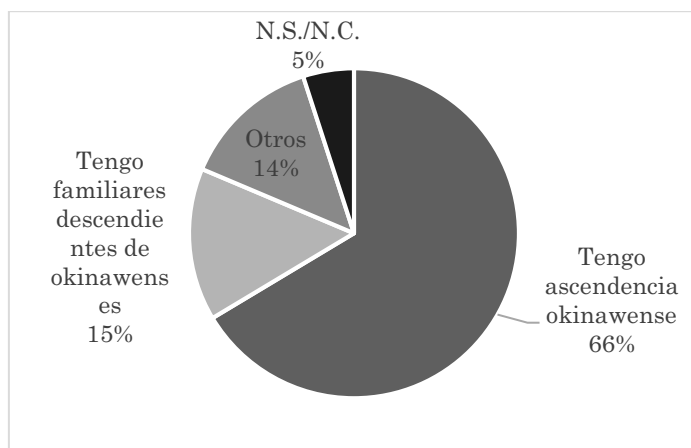


Figura 1. Atributos de los participantes del extranjero (ascendencia okiwanense)

A continuación, analizamos la generación de emigrantes a la que pertenecen los participantes del extranjero. Hubo participantes que representaban desde la primera hasta la quinta generación de migrantes. La proporción del número de personas en cada generación es de 39 (15.4%) en la primera generación (*issei*), 66 (26.1%) en la segunda generación (*nisei*), 81 (32.0%) en la tercera generación (*sansei*), 25 (6.6%) en la cuarta generación (*yonsei*), y 2 (0.8%) en la quinta generación (*gosei*). El cambio en la composición generacional de los dos festivales previos se muestra en la Figura2. Como en el festival anterior, la generación más numerosa fue la tercera. Sin embargo, al considerar las diferencias con el festival anterior, el porcentaje de los asistentes de la primera generación descendió, mientras que la de los asistentes de la cuarta generación ascendió, mostrando un cambio generacional en los participantes del extranjero.

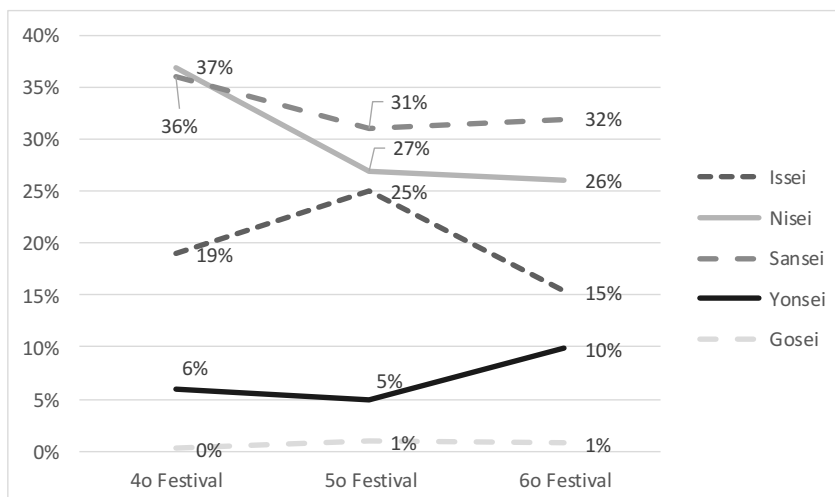


Figura 2. Cambios en la generación de los participantes del Extranjero



Con el fin de aclarar de qué país o región vinieron los participantes del extranjero, analizamos sus lugares de residencia actuales (Tabla 2). El resultado fue que los EE.UU. contabilizaron la mayoría de los participantes, cerca de la mitad de un total de 205 personas. Entre los participantes de los Estados Unidos, 62 eran de Hawái, contabilizando cerca del 30% del total. El siguiente contingente más numeroso era el de Brasil, con 41 participantes (10.8%), seguido por varios países sudamericanos como Argentina y Perú. Note que el "Participante del Festival" en la parte de en medio a la derecha de la Tabla 2 es el número de participantes en el 6º Festival Mundial Uchinanchu, según la Secretaría de la Comisión del Festival. Aunque el número de encuestados de Brasil es relativamente bajo (4.6% de diferencia), parece que el número de encuestados de cada país corresponde aproximadamente al porcentaje del número de participantes reales del festival por país/región. Hubo algunas personas que mencionaron Japón como su lugar actual de residencia, a pesar de entrar en la división de participantes del extranjero. Estas personas fueron originalmente emigrantes que ahora viven en Japón.

Tabla 2. Lugar de residencia en el extranjero

Distribuição	País/Região	Participantes Da Enquete	Participantes Do Festival
América do Norte	E.U.A. (Havái)	205 (53.8%) (62)	4247 (58.1%) (1861)
	Canadá	26 (6.8%)	197 (2.7%)
América Central e do Sul	Brasil	41 (10.8%)	1131 (15.4%)
	Argentina	37 (9.7%)	525 (7.1%)
	Peru	25 (6.6%)	620 (8.4%)
	Bolívia	5 (1.3%)	138 (1.9%)
	México	2 (0.5%)	23 (0.3%)
ásai	Filipinas	3 (0.8%)	76 (1.0%)
	Tailandia	2 (0.5%)	15 (0.2%)
	Malásia	2 (0.5%)	4 (0.1%)
	Coréia	2 (0.5%)	3 (0.04%)
	Taiwan	1 (0.3%)	16 (0.2%)
	China	1 (0.3%)	39 (0.5%)
Europa	Reino Unido	2 (0.5%)	32 (0.4%)
	Espanha	1 (0.3%)	1 (0.0%)
Oceania	Nova Caledônia	1 (0.3%)	65 (0.9%)
	Japão	17 (4.5%)	
	Não Aplicável	8 (2.1%)	
Total		381	7353

Se les preguntó a los participantes del extranjero si pertenecían a la Asociación de la Prefectura de Okinawa (*kenjinkai*) en sus respectivos lugares de residencia (Figura3). El resultado fue que 227 personas (59.6%) sí pertenecen a su asociación local. Cuando se les preguntó sobre su nivel de participación en la Asociación de la Prefectura de Okinawa, cerca del 20% de los participantes respondieron "Rara vez participo en las actividades", 82 personas o 36.1% respondieron "Suelo participar en las actividades", y 80 personas o 35.2% respondieron "Participo en casi todas las actividades". Esto muestra que la mayoría de las personas que pertenecen a una Asociación de la Prefectura de Okinawa participante de forma activa en la asociación.

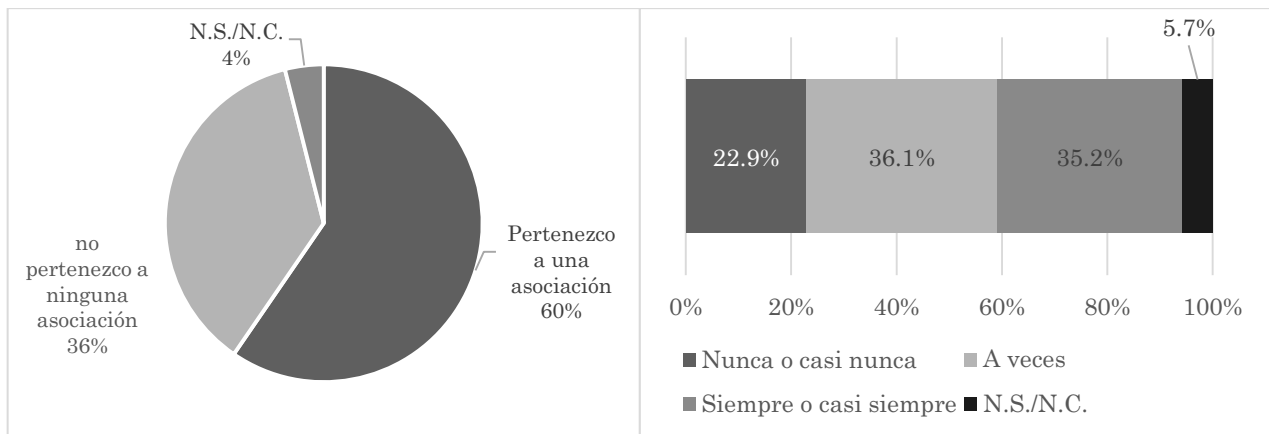


Figura 3. Afiliación a la Asociación de la Prefectura de Okinawa y el Nivel de Participación de los Participantes del Festival

## ② Análisis de la evaluación del festival

### 1) Propósito de la participación

Se les preguntó a los encuestados sobre las razones por las que participaron en el festival. Por supuesto, los participantes del extranjero y del interior de Okinawa tuvieron razones diferentes para participar, por lo cual esto se analiza por divisiones de participación (Tabla 3).

Tabla 3. Propósito del encuestado para participar en el Festival

Propósito de la Participación	Extranjero		Fuera de Okinawa		Interior de Okinawa	
	Frec	%	Frec	%	Frec	%
Conocer / Confirmar mis raíces	112	11.4%	3	3.7%	26	1.6%
Relacionarme con uchinanchus de diferentes países	97	9.8%	7	8.6%	201	12.3%
Relacionarme con los habitantes de Okinawa	89	9.0%	5	6.2%	50	3.1%
Relacionarme con uchinanchus de diferentes generaciones	20	2.0%	3	3.7%	70	4.3%
Aprender la cultura y tradiciones de Okinawa	155	15.7%	11	13.6%	106	6.5%
Tener contacto con diversas culturas de todo el mundo	20	2.0%	3	3.7%	229	14.0%
Aprender acerca de la emigración okinawense y sus descendientes en todo el mundo	56	5.7%	7	8.6%	167	10.2%
Encontrarme con mis parientes	143	14.5%	2	2.5%	29	1.8%
Encontrarme con amigos y conocidos	81	8.2%	5	6.2%	68	4.2%
Reforzar mi relación de amistad con otros miembros del kenjinkai	17	1.7%	1	1.2%	12	0.7%
Personas de mi alrededor (familia, parientes, amigos, kenjinkai...) me invitaron a venir	64	6.5%	6	7.4%	95	5.8%
Acompañar a otro/a participante	31	3.1%	3	3.7%	50	3.1%
Participar en alguna de las actividades del festival (como artista o parte del público)	66	6.7%	15	18.5%	299	18.3%
Estudiar o trabajar	11	1.1%	5	6.2%	126	7.7%
Otros	20	2.0%	2	2.5%	41	2.5%
No tengo un motivo concreto (vine por casualidad)	5	0.5%	3	3.7%	63	3.9%
<b>Total</b>	<b>987</b>		<b>81</b>		<b>1632</b>	

Entre los participantes del extranjero, las respuestas más comunes fueron "aprender la cultura y tradiciones de Okinawa" (15.7%), "encontrarme con mis parientes" (14.5%) y "conocer/confirmar mis raíces" (11.4%). Entre los participantes de otras prefecturas de Japón, las respuestas más comunes fueron "aprender la cultura y tradiciones de Okinawa" (13.6%) y "participar en actividades como artista o público" (18.5%). Entre los participantes de Okinawa, las respuestas más comunes fueron "participar en actividades como artista o público" (18.3%), "tener contacto con diversas culturas de todo el mundo" (14.0%), "relacionarme con uchinanchus de diferentes países" (12.3%), y "aprender acerca de la emigración okinawense y sus descendientes en todo el mundo". En términos generales, los participantes del extranjero vinieron a conocer de cerca Okinawa, mientras que los participantes de Okinawa vinieron a conocer otras partes del mundo.

## 2) Nivel de satisfacción con el festival

El 87% de los participantes expresó satisfacción con el 6º Festival Mundial Uchinanchu (correspondiente a la suma de las 553 personas (50.6%) que respondieron estar "muy satisfechos" y las 399 personas (36.5%) que respondieron estar "bastante satisfechos").

Al echar un vistazo por separado a las categorías de los participantes, el 79.3% de los visitantes del extranjero respondió que estaba "muy satisfecho". Sin embargo, aunque los participantes del interior de Okinawa alcanzan una puntuación alta en la escala global de satisfacción, el 51% respondió estar "bastante satisfecho". Respecto a esta cuestión, se ha confirmado que hay una diferencia estadística ( $\chi^2(8) = 209.51, p < .01$ )<sup>27</sup>. Una serie de resultados mostró que la satisfacción de los participantes con el evento fue alta, lo cual parece estar marcado de forma particular en los participantes del extranjero.

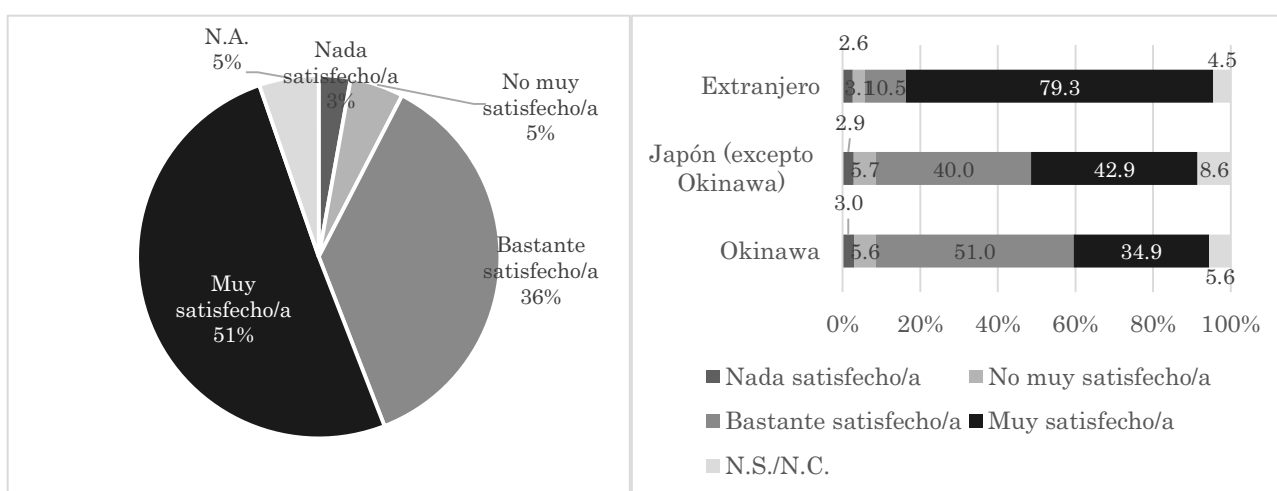


Figura 4. Nivel de satisfacción con el festival

## ③ Análisis del Propósito y Objetivo del Festival

La línea básica (propósito) del 6º Festival Mundial Uchinanchu ha sido construir una red humana (red *uchinanchu*) de personas okinawenses que emigraron al extranjero, y transmitir la identidad de Okinawa a las siguientes generaciones. En esta sección analizamos los objetivos del festival y examinamos el rol que desempeña este festival para las personas, la sociedad y la comunidad *uchinanchu*.

### 1) Análisis de la identidad *uchinanchu*

Ante la afirmación "Me considero *uchinanchu*", el 79% de las personas dijo estar de acuerdo (sumando los que estaban "bastante" y "totalmente" de acuerdo). Además, cuando se puntúan las respuestas en una escala de 1 ("en desacuerdo") a 4 puntos ("totalmente de acuerdo"), la puntuación promedio es de 3.43 (desviación estándar<sup>28</sup>=0.90), lo cual indica que la identidad *uchinanchu* de los participantes del evento es extremadamente alta (Figura 5).

<sup>27</sup> Para ver si hay diferencias en la frecuencia, analizamos a través de un método estadístico usando una muestra llamada prueba ji cuadrado.

<sup>28</sup> El índice muestra puntuaciones esparcidas. Cuanto más grande sea el valor, más grande es la distribución de las puntuaciones de los encuestados.

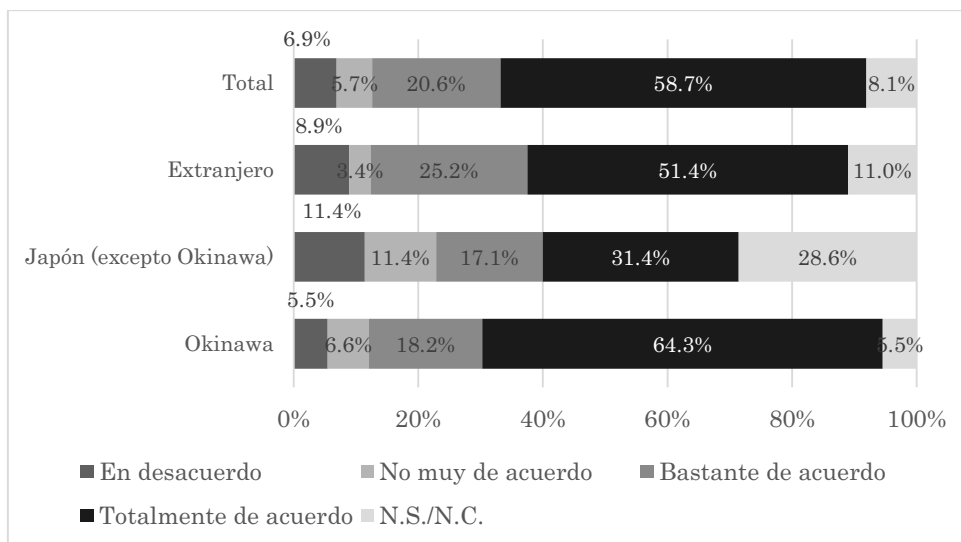


Figura 5. Identidad Uchinanchu

Cuando miramos la identidad *uchinanchu* por clasificación de participantes<sup>29</sup>, la proporción de la respuesta "no muy de acuerdo" fue mayor entre los participantes del extranjero, mientras que la proporción de la respuesta "totalmente de acuerdo" es más grande entre los participantes del interior de Okinawa ( $\chi^2(3) = 21.08, p < .01$ ). Asimismo, el valor promedio fue de 3.34 para los participantes del extranjero, mientras que el número de participantes del interior de la prefectura fue de 3.49, el cual fue, estadísticamente hablando, notablemente más alto ( $t(631.54) = -2.49, p < .01$ )<sup>30</sup>. Sin embargo, aunque los participantes del extranjero alcanzan una puntuación relativamente baja, es de 3.34 puntos sobre cuatro, mostrando que los participantes del extranjero también cuentan con un alto nivel de identidad *uchinanchu*.

Seguidamente estudiamos si la identidad *uchinanchu* de los participantes del extranjero difiere entre generaciones de migrantes, y cómo se ve afectado por la identidad local en el lugar de residencia (o de nacimiento del participante). También examinamos las características de la identidad de los participantes del extranjero (Figura 6). Los resultados<sup>31</sup> mostraron que no había diferencias en la identidad *uchinanchu* y las identidades locales a partir de la segunda generación, pero en la primera generación la identidad *uchinanchu* fue significativamente mayor que la identidad local. De acuerdo a este resultado, en la primera generación de personas que nacieron en Okinawa y emigraron al extranjero, la identidad de *uchinanchu* es relativamente alta, mientras que la segunda generación y posteriores, la identidad local y la identidad de *uchinanchu* estaban a niveles similares. Es evidente que la identidad *uchinanchu* se ha transmitido a través de las generaciones, y en la segunda generación y siguientes, coexisten las dos identidades.

<sup>29</sup> Los participantes de otras zonas de Japón tuvieron una tendencia hacia las bajas puntuaciones. Sin embargo, dado que el número de participantes de fuera de Okinawa fue bajo y que solo 11 personas era de origen okinawense, excluimos las respuestas de los participantes de otras prefecturas y comparamos solo a los participantes del extranjero con los que están en la prefectura de Okinawa.

<sup>30</sup> Se usó una prueba T, un método de estadística para probar la diferencia en el valor principal entre dos grupos.

<sup>31</sup> Usamos un método de estadística llamado análisis de la varianza (ANOVA) que compara solo a los participantes con los que están en la prefectura. Esto se volverá muy especializado, pero se reconoce la diferencia entre la identidad de Okinawa y la identidad local ( $F(1,186) = 11.13, p < .001$ ), y la correlación entre la identidad y la generación de migrantes fue estadísticamente significativa ( $F(3, 186) = 10.79, p < .001$ ). La notación anterior es principalmente el desarrollo de una prueba subordinada por interacción.

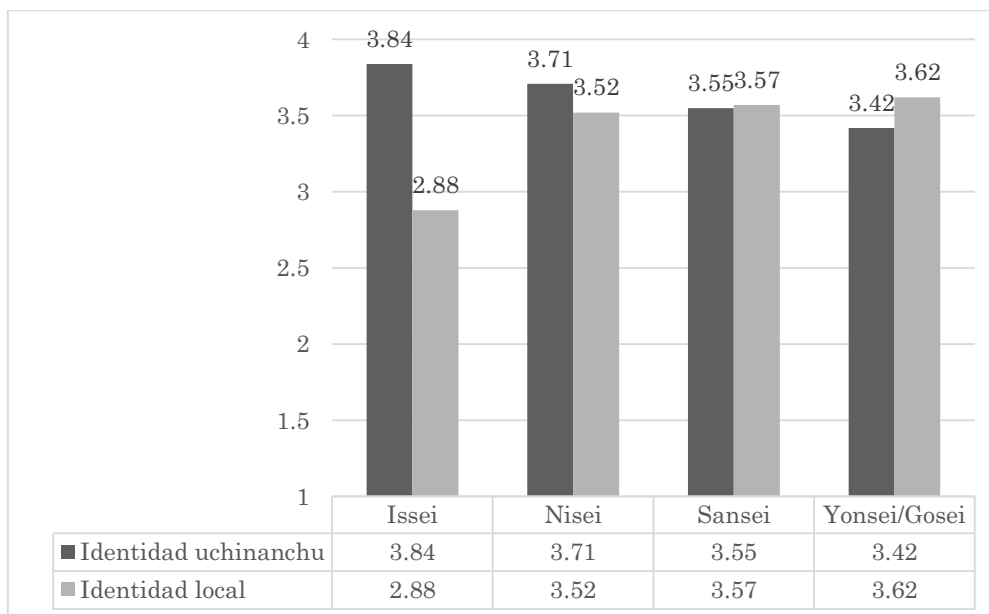


Figura 6. Comparación de la identidad local y la identidad okinawense en participantes del extranjero

## 2) Análisis de la red *uchinanchu*: creación de nuevas redes en el festival

Se les preguntó a los participantes si han formado vínculos con otros *uchinanchus* durante el festival, y cuántas personas forman su red de relaciones. Al recopilar las respuestas, la proporción de la distribución de las frecuencias totales se revisaron en 5 grupos: "0 personas", "1 a 10 personas", "11 a 30 personas", "31 a 50 personas" y "50 y mayores".<sup>32</sup>

Tabla 4. Se crean nuevas redes uchinancho durante el festival

Participantes	Nuevas redes entre uchinanchus creadas en el festival	0	1~10	11~30	31~50	Más de 50	N.S./N.C.
Extranjero	Residentes en mi región (estado/provincia)	40 18.3%	83 38.1%	56 25.7%	17 7.8%	22 10.1%	163 42.8%
	Residentes en mi país (de otro estado/provincia)	57 29.8%	76 39.8%	30 15.7%	13 6.8%	15 7.9%	190 49.9%
	Residentes en la prefectura de Okinawa	62 30.2%	90 43.9%	36 17.6%	5 2.4%	12 5.9%	176 46.2%
	Residentes en Japón	104 55.6%	66 35.3%	10 5.3%	1 0.5%	6 3.2%	194 50.9%
	Residentes de otros países	72 36.5%	83 42.1%	27 13.7%	7 3.6%	8 4.1%	184 48.3%
	Interior de Okinawa	Residentes en la prefectura de Okinawa	290 75.3%	69 17.9%	14 3.6%	2 0.5%	10 2.6%
Residentes en Japón		314 83.3%	51 13.5%	8 2.1%	1 0.3%	3 0.8%	300 44.3%
Residentes de otros países		314 79.1%	68 17.1%	9 2.3%	3 0.8%	3 0.8%	280 41.4%

Dado que la respuesta (tipo de red *uchinanchu*) que se solicita difiere según la categoría del participante, no puede evaluarse de forma colectiva. Sin embargo, la tendencia en general fue de que había muchas respuestas de "0 personas" de los participantes residentes en Okinawa. Aun cuando se construyeron redes de relaciones, la mayoría eran grupos pequeños. Estos resultados muestran que,

<sup>32</sup> En general una gran proporción de respuestas quedaron en blanco. Si se hubieran incluido estas respuestas nulas, los porcentajes hubiera quedado deformados de forma significativa. Por lo tanto, analizamos solo los datos válidos. Además, las respuestas de otras prefecturas japonesas también fueron excluidos del análisis.

entre los participantes del interior de Okinawa, casi no se construyeron nuevas redes *uchinanchu* durante la convención. Por otra parte, entre los participantes del extranjero, cerca del 30% respondió "0 personas"; pero esto, en otras palabras, significa que cerca del 70% ha construido una nueva red *uchinanchu*. Además, la creación de nuevas redes de *uchinanchus* ha ocurrido de forma generalizada. Los participantes del extranjero tienen redes en cada país/region que están conectadas a Okinawa, redes transfronterizas que conectan países, así como redes nacionales y regionales que conectan a la gente de forma local.

De todo lo anterior, y considerando que la construcción de la red *uchinanchu* era el objetivo y propósito del festival, se puede concluir que los participantes que viven en Okinawa no están aprovechando las oportunidades para la creación de redes. Se trata de un ámbito en el que aún hay mucho por mejorar.

#### **4. Resumen**

- Los participantes eran de una gran variedad de edades y países. De los participantes del extranjero, hubo también una tendencia hacia el cambio generacional.
- El propósito de participación difiere según la característica de los participantes. Los participantes del extranjero vinieron a tener contacto con Okinawa y los residentes de Okinawa vinieron a conocer otras partes del mundo.
- La satisfacción con el festival fue alta. En particular, los residentes en el extranjero reportaron un nivel muy alto de satisfacción.
- La identidad *uchinanchu* de los asistentes fue sumamente alta.
- De los participantes del extranjero, la identidad *uchinanchu* es relativamente alta, mientras que en las siguientes generaciones las identidades locales y *uchinanchu* están a un nivel similar. La identidad de *uchinanchu*, que se ha transmitido a través de las generaciones, coexiste a partir de la segunda generación con la identidad local.
- Las redes que recién fueron creadas en el festival tienen relativamente más participantes extranjeros, pero no se ha registrado casi ninguna ampliación de la red de relaciones entre los residentes de Okinawa. Las metas y objetivos del festival respecto a la "construcción de la red *uchinanchu*" no se ha cumplido satisfactoriamente, y es necesario mejorar los programas que promuevan los intercambios.

#### **5. Conclusión**

Estamos agradecidos con los muchos participantes del festival que cooperaron para responder nuestra encuesta. Este reporte es un sumario de una parte de la encuesta del festival y planeamos examinar de forma adicional los contenidos con el fin de lanzar informes de investigación en el futuro. Si usted tiene algún comentario sobre este informe, por favor póngase en contacto a través del correo facilitado abajo. Por favor, tenga en cuenta que los resultados de esta encuesta todavía no han sido publicados oficialmente, así que les pedimos que no usen todavía los datos aquí presentados.

Junzo Kato (Universidad de las Ryukyus)

Correo : jkato@ll.u-ryukyu.ac.jp